

研究紀要

北の沢

第32号

令和4年度

秋田県立西仙北高等学校

巻 頭 言

校長 伊 藤 真

県庁出前講座を担当していたことがあります。「秋田の歴史を読み直す」と題した教養講座です。出講の申し込みは全て各地のシニア大学からでした。シニア大学とは自治体や諸団体が主催・支援する高齢者を対象とした教養講座で、私もその時初めて知ったのですが、県内各地で開設されています。計5カ所にお声を掛けていただき出向きましたが、どこでも集まった高齢の方の向学心は旺盛で、熱心に講座に耳を傾け、時には活発な質問にたじろがされるほどでした。

ある時、愕然としたことがありました。シニア大学の活動内容をまとめた冊子に掲載するため、出前講座の概要を作文したので添削してほしい旨の依頼があったのですが、同封されていた文章が、私が話したはずの筋とはかなり異なっており、全体にわたって書き直さざるを得ないようなものだったのです。楽しみの教養講座で、受け止め方は各人自由であっていいと思いましたが、非礼にならないよう用語や誤字のチェックで済ませたものの、話したつもりがここまで伝わらないものかと軽くショックを覚えました。高齢の方ほど、長い人生における経験に裏打ちされた豊かな知識があって、その分、新しい知識や考えを受け入れるときにバイアスがかかりやすいのか、とも推測した次第です。

高校生に授業をしても同様のことはよくあります。強調したはずのことが何ら頭に入っていない、平然と「習ってません」と言われ、それに対して『リセット君』ですか』と全面的に生徒のせいにしたりする。しかし、自分の授業や講座を受け取った側の反応は、我が身を写す鏡でもありましょう。自分の説明・行為・指示等をメタ認知させてくれるものであり、改善策を講じて授業・講座の質を高められるチャンスと捉えることができます。私も「添削（チェック）」の後は考え直し、講座でのより丁寧な説明、本筋・余談の明確な区別などを心がけるようにしました。

本校の授業改善目標「生徒の学びに向かう力を引き出す『探究型』の授業づくり」の実現に向けた三本柱の一つが、「授業で学んだことや意欲を次の学習につなげる振り返りの工夫」でした。生徒の学びの質を高めることを主眼として掲げられた具体的方策なのですが、生徒の「振り返り」は、生徒が授業を「観察」した結果でもあります。教師が自身の授業を客観的に認知するための、生徒による「コーチング」として捉え、授業力の向上に積極的な活用を図るべきでしょう。生徒と教師共に活用できるような「振り返り」の形、内容にする工夫も考えられるはずです。

今年度の研究紀要『北の沢』は、教育変革の時代を迎えている中で本校教員が多様な取組を行った結果、多彩な内容となっています。手に取った皆様の研修に少しでも寄与できることを願うとともに、読後の素直なご意見やご感想をぜひお寄せいただければと思います。それが、教員一人ひとりのメタ認知の更新をさらに促し、学校全体の教育力向上につながると考えております。

目 次

<巻頭言> 校長 伊藤 真

<研究授業記録（指導案・研究協議会記録）>

数学科（数学Ⅰ） 教諭 進藤 健悟
地歴・公民科（世界史B） 教諭 高木 大
公開授業について 教諭 佐々木 満

<研修報告等>

インターンシップ報告 教諭 進藤 健悟
デンマーク社会福祉研修 教諭 加藤 英明
教諭 大釜 美佳子
【B講座】言語活動の充実（報告） 教諭 佐々木 満
第1回職員研修「ICTの活用について」 教諭 飯田 哲也
第2回職員研修
「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて」 教諭 小西 さなえ
第3回職員研修「地域探究巡検」 教諭 佐々木 満
第4回職員研修「心と体のストレッチ講座」 教諭 湯澤 美千代
第5回職員研修
「統合型校務支援システムの運用に向けた研修」 教諭 飯田 哲也
工夫のある定期考査問題についての報告 教諭 佐々木 満

<地域探究報告>

科目「地域探究Ⅰ」報告 教諭 佐々木 満

<編集後記>

数学科 学習指導案

実施日時：令和4年10月7日（金）
6校時

会場：102教室

クラス：1年A組（14名）

指導者名：進藤 健悟

1 単元名 数学Ⅰ 第2章 第2節 2次関数の値の変化 (新数学Ⅰ 東京書籍)

2 単元の目標 二次関数について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。
 ・二次関数の最大値や最小値を求める。
 ・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。

3 指導に当たって 男子9名女子5名の標準クラスである。標準とはいいながらも九九がおぼつかない生徒もいる。各生徒には、理解したり問題を解いたりする時間に大きな差はあるが、新しい分野、問題に対する意欲は高い。平易な計算間違いをしたり、表記の仕方が複雑になったりすると解答を諦めてしまうこともあるので、思考の順序立てを提示するなど丁寧な指導することで、集中して問題に向かうことができるように工夫している。
 解答の際に、関数グラフソフトGeoGebraを思考の補助とすることによって二次関数の特性を理解させたい。
 二次関数のグラフの性質を理解させ、GeoGebraを参考にしてグラフを作成させたり、最大値・最小値をとるxの値を確認させたりしながら、理解を深めさせることにより、GeoGebraを利用することなく、問題解決を図ろうとする姿勢を育てたい。

単元の指導計画と評価規準 A：知識・技能 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

学習内容	配当	評価規準
第2節 2次関数の値の変化	3 本時	・グラフから最大・最小を読み取り、それぞれの値を求めることができる。(C)
1項 2次関数の最大値・最小値	2/3	
2項 2次関数のグラフと2次方程式	3	・2次方程式の解をグラフにおいてはx軸との交点として表すことができる。(B)
3項 2次関数のグラフと2次不等式	3	・2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解くことができる。(A、C)

4 本時の学習活動

(1) 本時の指導に
 当たって

定義域が定められた2次関数の最大・最小の位置を確認しその値を求めることができる

- ・GeoGebraを利用し、2次関数のグラフをかき、最大値・最小値を求める。
- ・平方完成により、一般形である $y=ax^2+bx+c$ から標準形に変形する事が難しいので、GeoGebraで平方完成ができていないかを平方完成前と後の式を入力することで合致を確認する。
- ・定義域を明示することで、最大・最小の箇所を指し示し、それぞれの値を求めることができる。

(2) 指導過程 例 {評価の観点 A:知識・技能 B:思考・判断・表現 C:主体的に学習に取り組む態度}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
導入 (10分)		<p>2次関数 $y=2x^2-12x-3$ の最大値または最小値を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> x^2の係数から、凸の方向及び概形を考察する。 平方完成をして標準形から頂点、軸を読み取る。 グラフをかく。 GeoGebraを参考にして、平方完成が正しいかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 最大、最小の箇所を確認する。 最大値または最小値を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 概形をイメージすることでグラフを想起させる。 平方完成をして、グラフをかくことができるか確認する。 GeoGebraを利用する。 <ul style="list-style-type: none"> グラフの概形から最大値または最小値を求めることができるか確認する。
展開1 (30分)	限られた範囲での最大値・最小値	<p>2次関数 $y=(x+1)^2+2$ ($-2 \leq x \leq 1$) の最大値と最小値について考えてみよう。</p> <p>発問 定義域が制限された2次関数の最大値・最小値はグラフのどの部分でとるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフから定義域が決まることで、最小・最大となる x の値が決定することに気づく。 各自で見通しをたてる。 2～3人のグループで確認する。 定義域の両端と最大、最小が一致しないことに気づく。 最大・最小となる x の値が決まることで最大値、最小値を求められることに気づく。 <p>2次関数 $y=2x^2-12x-3$ ($-1 \leq x \leq 4$) の最大値と最小値を求めなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> GeoGebraに $x=-1$、$x=4$ を入力し、グラフをかく。 各自見通しと解答が一致するか、GeoGebraで確認する。 最大値、最小値を求める。 2～3人のグループで解法の確認を行う。 最大値、最小値を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> GeoGebraを参考にしながら、グラフの概形を確認する。(C)
まとめ 振り返り (10分)		<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートで、グラフの概形から最大・最小を求められることを理解し、記入する。 	

授業研究会（数学）

1 授業参観者

高校教育課主任指導主事 伊藤淳先生

小西さなえ、加藤英明、三春由香子、大釜美佳子、小野尚人、湯澤美千代

2 研究協議

指導助言：伊藤主任指導主事

授業者：進藤健悟 司会者：小西さなえ 記録者：湯澤美千代

(1) 授業者より

- ・同じ授業で4回目となる。 X^2 は大体理解しているが、マイナスが付いたり中括弧が入ると出来ない生徒が多い。数字が大きくなると間違える生徒が多いが GeoGebra で確認できた。問題の数字が大きかったのが反省点。
- ・教え込みが多くなる授業のため、生徒のうなずきや目配せでの確認が最後の方少なくなってきた。
- ・展開で「グループ活動」とあるが、いつもなら前後の生徒同士で話し合うのだが、今回先生方が生徒へ教えていた場面が多かったため、グループ活動ができなかったかもしれない。
- ・GeoGebra は使い勝手があまり良くなく、自分も不慣れである。グラフを前面に出す授業はあまり好きではないが、前任校で使用した際に生徒の理解力が上がったので今回使用した。
- ・グラフが書ける生徒と書けない生徒がいる。できる生徒ができない生徒に教えることができれば良かった。ケアがおろそかだった。
- ・振り返りシートが慣れてなくてうまく使えなかった。
- ・いつももう少し笑い声が出るが、緊張感があった。

(2) 参観者の感想

(小野)

- ・最初の平方完成について、間違えた生徒が救われたと思った。
- ・本校は、中学時から勉強ができなかった生徒が西チャレで自信をつけて、数学嫌いをなくそうという取り組みをしており、それが形になってきた。今日の授業では数字が大きい計算に意欲的に向かっていった姿勢が見られて良かった。
- ・数学の ICT の使い方について、他教科と比べて資料調べなどの使い方はできない。一人で数学の問題が解けるようになるというのが目標だが、ICTはテストでは使えない。今日の授業では、生徒は GeoGebra のグラフを見て答えを出したのか、自分で計算して出したのかということが問題点だった。伊藤先生に他校の例を紹介してもらいたい。
- ・中学校で習った一次関数を思い出して、応用しながら解いている子たちもいて良かった。

(大釜)

- ・GeoGebra が新鮮だった。イメージを持つのは大切なのだった。
- ・振り返りについて、次はどういう流れで使う予定だったのか。

(進藤)

- ・自分で問題を作らせて、良い問題を他の生徒に見せるという意図。しかし、できる生徒が少なく、本校では生徒がわからなかったところを記入してくるので、それを次の授業で復習している。昨年は個別で教えていた。

(大釜)

- ・問題を作成して、他の生徒が見るとするのは良いと思った。

(加藤)

- ・数学での ICT 活用は想像できなかったが、良いと思った。
- ・生徒の力量、雰囲気を理解した発問だった。
- ・言葉や理屈の説明はわかりにくいところがあるが、体のパーツを使うことでイメージしやすくなり、理解が深まるような工夫をされていると思った。

(三春)

- ・普段からのユーモアが出ていて、体を使ったり、生徒を使ったり、笑い声が聞こえて楽しく授業できていた。苦手意識を取り除いていた。
- ・本校ではドリルが必要なので、繰り返しが良かった。
- ・授業中私も生徒へ教えてしまった。先生方が口を出していなければ、グループ活動もできたかも知れない。生徒同士で教えているのが良いと思った。
- ・GeoGebra は学校のレベルで使ったり使わなかったりするの。自力で解くということから見ると、導入か活用かどんな場面だと生かせるのかと思った。

(進藤)

- ・生徒は平方完成が苦手なので、合っているかどうか確認のために使っている。また、自分でできる生徒たちの答え合わせに使っている。しかし、グラフを見て答えを出すようにズルする生徒もいる。できない生徒に手をかけると授業が先に進めないなので、自力で解くためのツールにしている。

(小西)

- ・生徒が数学であるにもかかわらず悲壮感がなく、良かった。
- ・「思考を揺さぶる主発問」とは、心を揺さぶる等どうしたらそういう発問が出来るのか。
- ・グラフを使ってイメージさせたり、生徒同士の教え合いが良いと思った。普段はもっと動きながらやっていると思う。

(進藤)

- ・2、3分わざと授業中教室を出る。先生が出ると生徒同士で教え合っている。
- ・いつもは大体グループになって話し合っているのが常なので、強制じゃなく「2～3人のグループ」と表記した。
- ・思考を揺さぶるということでは、体を使った表現を使っている。

(小西)

- ・わからない同士で問題を解くのは難しいのか。

(小野)

- ・一人で取り組んでからその後グループで取り組むというのが今のやり方。

(進藤)

- ・わからない生徒に手をかけられないのは申し訳ない。

(3) 指導助言

- ・よく生徒を理解し、きめ細やかな配慮をしており、安心して生徒が学びに向かう環境が作られている。わからないと言えるのは安心しているから。普段から積極的に話をしているからこそこの環境。
- ・ICTを使う他校の例としては、空間図形を展開する際に効果的に使われている。補助教材として軸移動等実際動かしてみせたり、確率統計の分野での分析など。実感を伴って生徒に考えさせている。
- ・ICTは絶対使わなければいけないわけではない。ICTを使うことでどういう資質能力を育みたいかということ。場面によって使い分けをする。今日の授業では、グラフを自分の答えの確認に使うのは面白いと思った。振り返りの場面でも、即時性で良いものをすぐ還元し、学びを深めさせるなどという使い方が出来る。一番良いのはそれが記録として残るので、1年かけて学びの記録が見られ、次年度へのモチベーションに繋がる。
- ・生徒の学ぶ意欲が高く、先生方の普段の取り組みのお陰。先生方が丁寧に対応してくれている。しかし一方で悪く言うと、生徒の学ぶチャンスを逃してしまっている。
- ・主発問について
 - 1 明解な問いであること。
 - 2 計画的且つ意図的であるか。
 - 3 興味意欲を呼び起こすものであるか。
 - 4 生徒の実態に合っているか。一人一人に配慮された発問か。
 - 5 タイムリーであるか。工夫された発問でも機を逸すると意味がない。
- ・回答の精度よりも過程を認める方が生徒のやる気に繋がる。
- ・今日の授業は問題解決型の授業。考える時間をとると授業が進まない。問題について個人で考えるところにあまり時間をとると、指導案の途中で時間が来てしまう。自分で解決までしなきゃいけないところまでいかななくても良い。集団解決の時間をとるのが、課題解決型の授業で大事。
- ・授業の最後は先生がまとめて言うのではなく、課題解決型の授業では生徒に考えさせる。大事なキーワードが出なければ先生の方で補う形。
- ・今日の授業でも、最終的にはグラフをかけることが大事ということが生徒から出れば良い。最終的に生徒に振り返りで何を書かせたいかということを逆算して授業を考える。

地理歴史科「世界史B」学習指導案

実施日時：令和4年10月7日（金）
6校時
会場：本校（201教室）
クラス：2年A組（8名）
指導者名：高木 大

- 1 単元名 世界史B 第Ⅱ部 第4章 第1節『イスラーム帝国の成立』
（『高校世界史 改訂版』 山川出版社）
- 2 単元の目標 アラブ人によるイスラーム帝国の形成と拡大及びその後のイスラーム世界の分裂の過程を把握させる。
まず、7世紀の西アジアの情勢との関わりにおいてイスラーム教の誕生の過程とその特質を理解させる。続いて、カリフの指導下にアラブ・ムスリムによる征服活動が行われ、ウマイヤ朝の時代には広大な地域が支配下に入ったこと、更にアッバース朝のもとでイスラーム法に基づく国家体制が確立したことを理解させる。
また、その拡大へ向かう動機について史料をもとに考察させ、イスラーム世界に対する自分なりの見方を持てるよう指導する。
- 3 指導に当たって 男子のみ8名のクラスであるが、欠席が続いている生徒がいるため、実際には更に少人数での授業になっている。学習に取り組む態度は総じて真面目であり、積極的に授業に参加しようとしている。作業を行ったり、理解したりするのに時間のかかる生徒が多く、生徒の状況を確認しながら授業を進める必要がある。
外国についての知識に乏しい生徒が多いため、特にこれまで縁遠い存在だったであろうイスラーム世界に対して自分なりの見方を持てるようにし、世界史に対する視野を広げさせたい。

単元の配当計画と評価規準 A：関心・意欲・態度 B：思考・判断・表現 C：資料活用の技能
D：知識・理解

学習内容	配当	評価規準
イスラーム教の誕生	1	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム教及びイスラーム世界に関心をもち、その特徴を理解しようとしている。(A) ・イスラーム教の誕生を、当時の西アジアの情勢との関わりにおいて捉え考察している。(B)
アラブ人の征服活動	2 本時1/2	<ul style="list-style-type: none"> ・アラブ・ムスリムの征服活動の動機を、史料をもとに考察し判断できている。(C) (B) ・ウマイヤ朝からアッバース朝への移行による変化を把握し、イスラーム法に基づく国家体制が確立したことを理解している。(D)
イスラーム帝国の分裂	1	<ul style="list-style-type: none"> ・アッバース朝の衰退とともに地方政権が成立しイスラーム帝国が分裂する過程を理解している。(D)

- 4 本時の学習活動
(1) 本時の指導に当たって
- アラブ・ムスリムの征服活動の動機を考察しイスラーム世界に対する見方を育てる
- ・正統カリフ時代からウマイヤ朝期にかけてのアラブ・ムスリムの征服活動の動機を史料をもとに読み解かせ、考察した内容をグループで協議してJamboard上にまとめさせる。
 - ・戦争についてのムスリムの考え方を、ジハードの概念との関わりにおいて理解させることで、現代の西アジアの国際情勢の理解にもつなげたい。

(2) 指導過程

{評価の観点・・・A関心・意欲・態度 B思考・判断・表現 C資料活用の技能 D知識・理解}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
導入 (5分)	前時の振り返り	前時を振り返って、イスラーム教についての基本的事項を確認する。	
展開 (40分)	本時の学習事項を概観する	教科書の該当箇所を各自で黙読した後、プリントに適語を補充する。 その後、グループ内で答え合わせをする。	自力で適語を補充した後、グループ内で解答を教え合わせる。
	アラブによる征服	正統カリフ時代からウマイヤ朝にかけてのイスラーム世界拡大の概況をスライド史料によって把握させる。	電子黒板にスライドを映して生徒に問いかけながら説明する。
発問 アラブ・ムスリムはどうして征服戦争を進めたのだろうか？			
	征服戦争の動機は何か？	史料をもとに征服戦争を進めた動機を考察しJamboard上に記載する。 国家（共同体）としての動機、信徒個人としての動機をそれぞれ考察する。	ジハードの概念の多様な解釈に触れ、征服戦争との関わりを考えさせる。 机間巡視を行い、適宜助言を与える。
発問 被征服地の人々はウマイヤ朝によるイスラーム化にどう対応したのだろうか？			
	発表	史料をもとに、被征服地の諸民族のイスラーム化への対応を、当時の社会状況との関わりから考察しJamboard上に記載する。 記載した内容について各自がグループ内で説明し、協議してグループとしての回答をまとめる。 グループ毎に発表する。 他のグループは発表を聞いた後、質問または意見・感想を話す。	観察による評価—史料をもとに自身の見解をまとめている。(C) 発表の内容及び質疑応答による評価—アラブ・ムスリムの征服活動の動機を考察し判断している。(B)
まとめ 振り返り (5分)	本時の振り返り	自己評価表の記入 Formsを用い、本時の取り組みについて3段階で評価する。 アラブ・ムスリムが征服を進めた動機と、被征服地の諸民族のイスラーム化に対する反応について理解したことをまとめ、記入する。	

(参考—使用した史料)

メインの問い (1)

アラブ・ムスリムはどのようにして征服戦争を進めたのだろうか？

この時期にアラブ軍がなしとげた成功にはまさに目を見はるものがあります。そうした成功のもっとも大きな要因をあげるとすれば、やはりアラブ兵が宗教的な情熱に支えられていたところにあったのでしょう。アラブ人は彼らが神の意志を実行に移し、その過程で新しい「信者の共同体」を創造しつつあるのだということを疑っていなかったのです。

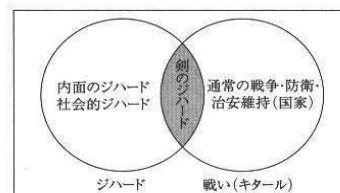
(J. M. ロバーツ『世界の歴史④ビザンツ帝国とイスラーム文明』より)

ジハードとは、イスラーム教徒（ムスリム）による異教徒への戦いをさす言葉である。一般に「聖戦」と訳されるが、アラビア語本来の意味は「定まった目的のある努力」である。……

理念としては、イスラームが全世界を包摂するまで、ジハードが必要なのである。そして現実にもイスラーム世界の拡大と防衛のために戦わねばならなかった。ジハードの戦死者には天国が約束されていた。

(歴史教育者協議会編『100問100答世界の歴史2』より)

…ジハードが「奮闘努力」の意味であることははっきりしている。ジハードを分類すれば、心の悪と戦う「内面のジハード」、社会的な善行を行い、公正の樹立のために努力する「社会的ジハード」、そして「剣のジハード」に区別することができる。私たちはジハードと聞くと、最後の剣のジハードを思い浮かべがちであるが、メッカ時代から継続的にあったジハードは、内面と社会のためのジハードで、剣を持って戦うことではなかった。



ジハードの区分

(小杉泰『イスラーム帝国のジハード—興亡の世界史6』より)

アブー・バクル（初代カリフ）は北方のシリアにたいしても征服軍の派遣を決定した。シリアこそ、隊商活動を通じて預言者ムハンマドが知り尽くしていた土地であり、晩年には、この地方の獲得になみなならぬ意欲を示していた。地味豊かなところであり、交易による利益もおおいに期待できる土地柄であった。……

…遠征隊の派遣はカリフの「命令」ではなく、あくまでも「呼びかけ」の形でおこなわれた。しかもその呼びかけは、ジハードを鼓舞すると同時に、それによって素晴らしい戦利品が獲得できることをも示唆している。アブー・バクルの偉大さは、いまや戦利品の獲得は、ジャーヒリーヤ時代（イスラーム教以前の時代）のような略奪行為の結果ではなく、神の道のために戦うことによって達成されると意義づけたところにあったといえよう。

(佐藤次高『イスラーム世界の興隆—世界の歴史8』より)

それゆえ、来世のために現世の生活を売り払う者は、アッラーの道のために戦わせなさい。アッラーの道のために戦った者は、たとえ殺されても、あるいは勝利を得ても、神が必ず大いなる報償を与えるであろう。

(『コーラン』第4章75節より)

ハーリド（イスラーム軍の部将）はインクつぼと羊皮紙を持って来させ、つぎのように書いた。

慈悲深く、慈愛あまねきアラーの神の御名において、これはハーリドが、ダマスクスの住民に与えるところのものである。

もし彼が入城すれば、ダマスクスの住民の生命・財産・教会の安全の保障を与えることを約束する。城壁は破壊されることなく、住民の住居にはイスラーム軍を宿営させない。

かくして彼らにアラーの契約と、カリフと信徒たちの保護が与えられる。彼らが人頭税を納むる限り彼らには良きことのみがもたらされるであろう。

(バラズリー「イスラーム帝国の起源」—東京法令『世界史資料』所収より)

メインの問い（2）

被征服地の人々はウマイヤ朝時代までのイスラーム化にどう対応しただろうか？

637年、将軍サードは1万7000のアラブ軍を率いてヒーラに近いカーディシーヤまで進出し、ここで象を先頭に配置したササン朝ペルシアの大軍を打ち破った。…キリスト教徒の先住民は、ゾロアスター教徒の支配者（ササン朝ペルシア）より、むしろ一神教徒である信頼のムスリム軍に親近感を抱いたといわれる。

（佐藤次高『イスラーム世界の興隆—世界の歴史8』より）

…アレクサンドリア（ビザンツ帝国支配下にあったエジプトの港）征服の例をとり上げてみよう。この港町を包囲した将軍アムルは、籠城するビザンツ軍と和約をむすび、町の明け渡しと貢納金の支払いを条件に、キリスト教徒やユダヤ教徒の住民には、従来通りの信仰を保持することを承認した。…

つまりアラブの征服には、(1)イスラームに改宗するか、(2)人頭税を支払って従来通りの信仰を保持するか、(3)これらを拒否してあくまで戦うか、の三通りがあったことになる。

（佐藤次高『イスラーム世界の興隆—世界の歴史8』より）

ビザンツ帝国は、その領内で公式教義に反するキリスト教徒たちを激しく弾圧していたからである。…同じキリスト教と言っても、これらの教派は激しい弾圧にさらされていたから、イスラーム軍が現れたとき、ビザンツ支配の継続とイスラームの支配下に入るのを天秤にかけるような状況があった。同じキリスト教の弾圧に疲れていたキリスト教住民は、イスラーム軍へ協力したり、局外中立を保ち、これがイスラーム軍に有利に働いた。さらに、ビザンツ帝国のシリア支配が一時回復された際に、ユダヤ教徒たちがササン朝への協力のとがで迫害されたことも、ユダヤ教徒たちがイスラーム軍に協力する原因となった。

（小杉泰『イスラーム帝国のジハード—興亡の世界史6』より）

授業研究会(地歴・公民)

- 1 授業参観者 石山 伸介、千葉 智子、佐々木 満、小林 万寿美、小野寺 ゆかり、
石川 忍、佐藤 俊平
高校教育課主任指導主事 鈴木 亮(地歴公民)

2 研究協議

司会者:佐々木 満 記録者:石川 忍 授業者:高木 大 指導助言:鈴木指導主事

① 授業者の反省:高木

今日の授業は学習指導案の計画の7割くらいで終わった。展開の半分をカットした感じだった。時間配分の間違があった。生徒たちは非常によくやってくれた。普段の授業では1時間くらい学習事項を学習した後、それを元にもう1時間かけて今日のように調べたりまとめたりしている。1時間の中で学習事項を押さえつつ資料を見て考えて発表するというのは無理があったと思う。もう少しテーマや資料を絞って簡略化した方がよかったと反省している。生徒たちは一生懸命指示に従って取り組み、発表まで行ってくれた。生徒たちに助けられた授業だった。

② 参観者の感想

- (千葉) ジャムボードを使っていなかったのが使い方の参考になった。ウォーミングアップのところで3分間時間を取って教科書を見ながら答えを記入していたが、タブレットを使えば時間短縮できると思った。本時の目標を提示し書かせて、本時の重要事項を3分で調べて記入させていたが、探すのは大変そうであったが教え合う様子があって良いと思った。ただ、作業で終わってしまい、アラブ人の征服活動の流れが頭に入っていないので次の資料を読んでも意味が分からないとなったのではないかと思った。国語の責任もあると思うが、資料に下線が引かれているにもかかわらず読めていなかったのではないかと残念に思った。ジャムボードの中でも色分けしていたことは、視覚によって彼らは色々なことを判断するので良いと思った。ジャムボードを2つに分けて貼り付けさせていたが、人数が少ないので人で付箋を分けても良いと思った。そうすると誰がどの意見を出したかが分かるのではないかと思う。とても難しい内容だったが生徒たちが一生懸命考えて、何とかまとめようと協力していた姿が良かった。これしか答えがないという訳ではないと思うが、それに向かって何となく意見を出し合って、それに近づけようと努力する姿が見られて良かった。
- (小野寺) 教科書や資料を読んだりするところで、そういった授業を普段やれているので、一生懸命読んで理解しようとするところが凄く見えた。積み重ねていかないと読めないことだと思うので、身についてきていると思った。ジャムボードに書くときも文章で説明しようとし、そういった努力が見えた。資料が難しいところもあったが、生徒がタブレットを使ってさらに調べようとしていたので、限られた時間の中で上手く活用する姿も見られて良かった。黙読をさせて読み終わったら顔を上げてくださいという感じで進めていたのは皆の様子がはっきりと目に見えて分かるのでやりやすかった。
- (石川) その時間に何をすれば良いのかがはっきりしていて、生徒にとってもわかりやすかったと思った。読み終わったら顔を上げるなど、行動が終わったらどうするかまで指示していたので、私自身も気にして授業しようと思った。ジャムボードでグループワークするときも、口で説明するだけではなく手順などを電子黒板に映し出していたので、聞き逃してしまったとしても何をすべきかが分かるので生徒はやりやすかったと思う。
- (石山) 一ヶ月前課題の中で、重点的に取り組んだ所を教えてほしい。
- (高木) 1, 2, 3の全てを盛り込んだつもりでいる。抽象的な主発問であったが、単純な答えの無い色々な意見がでてくるものとした。振り返りの時間を端折ってしまったが、授業内容全体

の振り返りができるように工夫した。ICTの活用も意識して授業を行った。

(石山) 始めのところで教科書を黙読させた意図は何かあるのか。自分なら音読させそうだが、先生方はどうか。

(小林) 私は音読させている。

(佐藤) 私も音読させるかもしれない。

(佐々木) 私はあまり読ませていない。自分で事前に読み取ったことを話して進行している。

(千葉) 基本的には生徒に読ませるか、こっちで読むかのどちらか。

(石山) 今日の黙読の意図、高木先生には狙いがあると思うが？

(高木) 黙読よりもその後の穴埋めをやらせたかった。教科書をただ読んでも抜けていくので重要語句を押さえさせたい。その後の内容の説明をできるだけ端折りたいと思っていて、その短縮のためにまず穴埋めさせたい。そのためには一通り教科書を読まないといけないと思い黙読させてみた。時間短縮のための実験的な取り組みであった。

(石山) 最初の発問の前の電子黒板による説明が凄くわかりやすかった。あの内容は前の時間の確認なのか？

(高木) 初めての内容である。できるだけ端折るために語句補充を先に行った。

(石山) 主体的とか対話的という視点から見た場合、今日の授業の満足度はどうか？

(高木) 時間を倍くらいとればもう少し行けたかと思う。資料の読み込みだけで精一杯になってしまい、活発な意見交換という所まで行けなかった。

(石山) 資料を基に生徒が色々意見を出していたが、あの資料は資料集からか？出典が出ていたので教科書からではないと思うが。

(高木) 資料は蔵書を基に作成した。

(石山) 例えば資料を出さずに生徒がそれぞれ仮説を立てるとしたら危険か？「アラブ・ムスリムはどうして征服戦争を進めたのか？自分の考えで書いてみて。」としたらどうか。突拍子も無い意見がでるリスクはあるが。

(高木) それも面白いと思う。

(石山) 古典ではこちらで資料を用意することがあるが、選ぶ資料によって方向付けしてしまう。世界史では色々解釈があると思うので気になった。

(小林) 侵略の地図などを実際に映像で見られるのが今ならではで分かりやすいと思った。私たちの時は資料集だけで見比べてとしかやらなかったものが、パッと視覚的にこの領土がこんなに広がったと理解できたので、今日の流れの方にはスムーズに移行できたと思った。ウォーミングアップの所で時間を計ってやる所で、自分たちで資料を読み込んでいたので日々の習慣が出ていて良いと思った。知識の定着という点でも良かったと思う。展開の所では資料が難しいと思った。生徒が一生懸命読み込んでまとめたので凄いと思った。征服戦争という所では、国家としての意図と個人としての意図があるという2種類の方向性を生徒たちに読ませるという所で戦争は一つとしての方向だけではないということを生徒に気づかせようという意図が見えて、歴史の深さを学ぶことできた。色々な意見があるが、実際はこうなんだという答えが知りたくなった。

(佐藤) ワークシートが前の時間の確認から始まり、本時の内容に入っていくという流れが非常に分かりやすいと感じた。ジャムボードの使い方が、色分けしていたり何処に何を書くのが簡単に分かるようになっていたり、手順が一目で分かるようにしてあったりして分かりやすかった。生徒も授業がやりやすかったと感じた。生徒が動いている時間や考えている時間が多く、活発な授業だったと思った。

(佐々木) 世界史のイメージを脱するような授業だった。世界史と言えば教科書や資料集、地図などの資料が沢山あって、それを沢山開きながら進んでいくというイメージだったが、そういうものが何も無く、板書も無く、凄いチャレンジ的というか今はこうなのかと思った。地図も分

かりやすく、資料集で見ても断片的だったりすることの変化が分かりやすく、とても良かった。生徒が鍛えられている授業だと思った。資料を見たときに問いのレベルが高いと思った。生徒がやれているので普段からそういう授業をやっているのだと思った。ジャムボードも慣れているし、プレゼンも落ち着いて行っているので普段からやっていると思った。最近、1年生でジャムボードを使い始めたが、マナーやリテラシーの指導も含めながら授業を行っている。鍛えられていた生徒が進めて行っている授業だと思った。ジャムボードで付箋を用いてグルーピングを行いたいが、人数が少なすぎるとグルーピングの意味があるのかと考えると、複数の視点から考えさせ、一人が2枚3枚と書くような資料を出すと良い感じになると分かり、参考になった。本時の目標や主発問、テーマなどを掲示するのは食いつかせる意味もあるのかと思う。YouTube ではないけど「何これ？」と思わせるような。「広大な帝国はなぜできたか？」とか示してその後展開していくのでも良かったのではないかと思った。凄く良い授業だったので自分も頑張りたいと思った。

③ 1ヶ月前課題について

(佐々木) 主発問・振り返り・ICTの活用について実践していることを挙げてほしい。

(小林) ICTを頑張ろうと思い使っている。消費者の単元の教材は消費者庁やクレジット会社など色々な所を出しており、それらを使っている。オリジナルで作ろうとすると難しい面もあるので、そういったものを活用している。自分の学校の生徒に合っているかという点、説明が足りなかったり難しい言葉をさらりと流していたりするので、ダウンロードした PowerPoint などの素材に説明を追加している。視覚的にも分かりやすくなるように意識している。ジャムボードを使えていなかったのも、こういう風に使いたいと思った。振り返りは毎回できておらず、プリントで回収することが多いので、ウォーミングアップの所をタブレットで作って回収みたいなことを取り入れていきたいと思った。

(小野寺) 振り返りとICTということで、授業の中で覚えたことを google フォームでクイズみたいな2, 3分で答えられるものを出している。授業内でやらせるという感覚がなく、「クイズを出したから答えておいてね。」という感じで時間があるときにやってねという感覚で出している。生徒たちは放課後とか昼休みの時間を使って答えている。本人たちは振り返りという感覚がなくゲーム感覚で答えており、授業アンケートを行ったら振り返りの評価が低く残念だった。気軽に答えて欲しくてやったつもりだったが意図が伝わってなかった。授業の時間を確保したくてこの形式で行ってきた。高木先生のように2, 3分だから授業の最初に行っていれば振り返りと捉えてもらえたかなと思った。ICTを使えば家でもできると言ってやったりしている。もう少し生徒たちに知識の定着の振り返りと捉えてもらえればもっと身につくのかなと反省している。色々やり方を考えながらやっていきたい。

(高木) 折角学校で導入したので、最近ロイロを使い始めた。共同作業は今日みたいなジャムボードやドキュメント、スプレッドシートを使って行っているが、ロイロを使った共同作業をどうやったら良いのかよく分からないので実践例があれば教えて欲しい。

(石山) この間、自分の研究授業でやったときは、古典の口語訳を各自分担して行い、「みんなに送る」機能で全員に送ってもらった。それを自分のデスクトップ上で順番に並べられるのでエルモに表示しながらそれぞれの訳の所を発表してもらった。1つのテキスト全部を自分で訳さなくてもよいというメリットがあるが、自分で訳していない所が大半になり、本当に定着するのかという不安がある。

(佐々木) 授業の最後に Forms で質問や感想を書かせている。次の時間に質問に答えるようにしているが、質問に答えていると次の質問が出てきて正味の授業時間がどれくらいなのかという感じになることもある。やり取りしている感じが必要なのでそういうやり取りも授業の中でするようにしている。

指導助言:鈴木 主任指導主事

これまでの蓄積が感じ取れる深みのある授業だった。生徒方もよく資料を読みこなして自分なりにまとめ発表まで持って行く所は、普段、世界史だけではなく色々な授業で生徒方が活動をしているからこそあの場面だったと思う。世界史の授業を含めて普段の取り組みの先生方のチームワークが生徒の力をつけることに結びついていると感じた。

地理歴史は30年ぶりの科目の改訂という年で、国語と地歴はその波に巻かれている所である。どの教科でも学習指導要領の変わり目で苦慮していることと思う。「指導と評価の一体化に関する参考資料」や学習指導要領を見ると、これまで以上に科目全体のデザインが大事だと感じる。「はい、今日はここまで」という授業ではなくなってきた。今日は今日で、今日でなくても単元として一つ完結した形でデザインして行かなくてはならない時代になったと感じる。単元のデザイン、科目全体のデザインの中に本時が位置づけられることになるので、「今日は何をやるかな」ということもなくなってくると思う。本時で「何を、どんな所を見取るのか」ということを始めからしっかりと作って授業に臨まないといけなさと感じる。

地歴公民の場合は、今までも資料の精選と何度も言われてきたが、資料や題材を何にするかによって授業の方向性が凄く変わってくる。どの資料を提示するのもも地理歴史の授業では重要になってくる。

歴史総合が今年からスタートしているが、西仙北高校では来年度からであるが、教科書をともにやっていると終わらないという話が色々な学校から聞こえてくる。今まで通り最初から順番に進んでいくと絶対に終わらない。その授業で何処を生徒に自主的に頑張ってもらって、何処をメインにして、何の資料を提示して、どんな問いをかけて、そして一つの授業のデザインをしていくのかということが求められる。そのためには資料や主発問や振り返りをもっともっと意識していかなければならない。生徒の心を揺さぶるような主発問は難しいけれども、それを追求していかなければならないと思う。

指導についての話になるが、校長先生と同職したことがあり、授業を見させてもらったことがあった。説明が書いていない「焼き場に立つ少年」の写真をパッと出して、「これは何の写真かな？」と生徒に考えさせていた。「資料を説明しない。資料に語らせる。」ということを校長先生はおっしゃっていた。我々は、手のかかる子であればあるほど説明したり、色々手取り足取りしたりしたくなるものだが、提示するもので生徒に何かを感じさせる、それをきっかけに展開していく、地歴に限らず何かを物に語らせる、資料に語らせるということも意識してみても良いのではと感じる。

振り返りの話がでたが、また、校長先生からは3観点の「主体的に」の評価をどうするかを先生方が悩んでいるとの話が出たが、どの学校に行ってもそうである。今まで通り「はい」と手を挙げれば主体的というわけではない。指導と評価の一体化ということで、最初に問いを提示して、今回の高木先生の授業であれば「アラブ・ムスリムはどうして征服戦争を進めたのか？」と問いを出しておいて、色々な活動を通して、その間に補助的な発問などを通して、最後もう一度最初の発問に戻ってくる。そこで自分が最初に考えていたことが一通り学び終わった後でどういふ変化が起こっているのか、その変化を書かせて、「最初にこういう風に考えていたが、学びのプロセスを経て、こういう風に考えるように至った」と見取って、主体性を見るということも一つのやり方であり、取り組んでいる先生も多い。この部分はまだまだ手探りの部分が多く、こうした方が良いとはっきりといえない状態であるが、振り返りと主体性の評価の話題を紹介しました。

先生方には中学校の授業を見に行っていて欲しい。中学校は1年先行している。中学校も「手探りです」と言うけれども色々共有できている所もある。学校単独で学校内の先生方で意見交換して進めているのが現状だと思うが、入学してくる生徒がどういふ学びを経てここに来てい

るのかを知っておいた方が良い。小・中とステップを踏んできた子を高校で迎え入れるにあたってスムーズに高校の学びに移行できる。中学校の真似をしてくださいということではない。何をやっているのかを知ることは授業改善にプラスになるはずである。機会があれば中学校の授業を見に行き行って欲しい。

新学習指導要領への切り替わりの大事な時期なのに、他の学校との情報共有がコロナに邪魔されて滞ってしまっていることが心配である。知る限りでは家庭科の情報共有が一番進んでいると思う。家庭科は全県的なチームワークで新学習指導要領を見据えて一生懸命頑張っている。教科によってできていない所もあると思うが機会を捉えて、リモートで全国的な研修にもお金をかけずに参加できるようになったので、色々と自分で普段の取り組みをブラッシュアップしてアップデートして目の前の生徒のために授業改善に努めて欲しい。

公開授業について

研修部 佐々木 満

・「指導主事訪問1か月前課題」の内容を受け、授業改善の共通テーマ及び共通ポイントを次の通りとした。

○授業改善の共通テーマ：「生徒の学びに向かう力を引き出す『探究型』の授業づくり」

○授業改善の共通ポイント

（1）生徒の思考を揺さぶる主発問と、授業展開に適した補助発問の工夫

（2）授業で学んだことや意欲を次の授業につなげる振り返りの工夫

（3）授業展開に適したICTの効果的な活用

・今年度は別紙計画の通り、9月以降、全教員に1回公開授業を実施していただいた。流れは次の①～④のとおりである。

①授業者は公開授業の実施日時を、実施日の1週間前までに研修部に伝える。

→研修部が全体に告知。

②授業者は公開授業シートを作成し、実施日2日前までに研修部に提出。

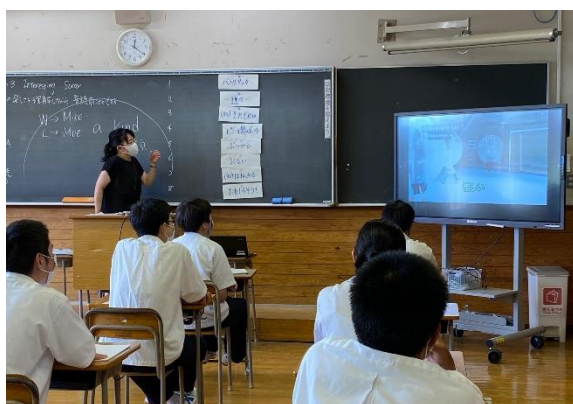
→研修部が公開授業シートと感想記入シートを印刷。授業教室の入り口に置く。

③授業者が公開授業を実施。

④参観者は感想記入シートを記入し、授業者本人と研修部に提出。

※指導主事訪問（2回目）の授業者の先生方（地歴公民科－高木先生、数学科－進藤先生）は実質公開授業を実施する形になるので、公開授業に関しては対象外とした。

・今回は、特に多くの先生方が参観した2つの授業（大釜美佳子先生と加藤英明先生の授業と、小西さなえ先生の授業）について、公開授業シートと感想記入シートのまとめを示した。



大釜先生・加藤先生の授業風景



小西先生の授業風景

令和4年度 校内研修計画・実施記録表

	学校行事等	校内研修	研究授業等	実施記録
4月	始業式(5日) 入学式(6日) 面接週間(11~18日)			
5月	県南総体(7~9日) 中間考査(17~19日) 指導主事訪問①(26日)		全体参観(2、3校時)	
6月	全県総体(4~7日) 西高祭(25日)	第1回職員研修(Google workspace for Education の活用方法①)		
7月	期末考査(5~8日) 終業式(21日) 三者面談	第2回職員研修(コミュニティスクール研修):7月21日(木)	第1回授業アンケート	
8月	始業式(22日) 学級対抗(23~25日) 面接週間	第3回職員研修(西仙北地域の巡検):8月10日(水)		
9月	面接週間	第4回職員研修(Google workspace for Education の活用方法②)	公開授業(5名) 石山、大釜、加藤、小野、小林	予定通り実施
10月	ボランティア・なべっこ(5日) 中間考査(17~19日) 指導主事訪問②		公開授業(1名) 三春 全体参観→研究授業(数学(進藤)、地歴公民(高木))	予定通り実施
11月	県南新人 2年修学旅行(7~11日) 生徒会役員選挙(22日)		公開授業(2名) 小野寺、佐藤	予定通り実施
12月	期末考査(8~13日) 終業式(21日)	第5回職員研修(ストレッチ講座)	第2回授業アンケート 公開授業(1名) 小西	予定通り実施
1月	始業式(16日) 3年学年末考査(25~30)	第6回職員研修(Google workspace for Education の活用方法③)	公開授業(1名) 飯田	予定通り実施
2月	3年修学旅行(7~10日) 表彰式等(28日)		公開授業(3名) 千葉、佐々木、石川	予定通り実施
3月	卒業証書授与式(1日) 高校入試1次募集(7日) 1・2年学年末考査(8~14日) 修了式(20日)		※研究紀要	
備考				

【 9月 6日(火) 4校時 1年 A組 (場所:102教室) 】

授業者	大釜 美佳子(T1) 加藤 英明(T2)		
教科(科目)	英語コミュニケーション I	教材	VISTA English Communication I
单元名	Lesson3 Interesting Sports Section2		
<p><授業改善の共通テーマ> ○「思考力・判断力・表現力等の育成に資する探究的な学習の構築」</p>			
<p><授業改善の共通ポイント> ①主発問: 「バブルサッカーの楽しさを想像しながら、音読してみよう」 ②他者との協働: ペアで協力して、語句や本文を読めるようになる。 ③ICTの活用: 振り返りをする時に、タブレットを使用する。 ④有効な振り返り: 「仲良くなるために(相手に興味を示すために)、使える！」と、あなたが思う文はどれか。</p>			
<p><本時のねらい> 楽しい会話の雰囲気、ペアで音読することができる。</p> <p><本授業の見所(アドバイスいただきたいところ)> ペアでコミュニケーションを取りながら活動しているところ。(このことに関するアドバイスをいただきたい。)</p>			
学習活動		指導上の留意点・評価等	
導入	単語帳を使って、 ペア毎に例文を音読する	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の意味を理解しながら、英語を正しく発音しているか。 語彙力を増やそうと意欲的に取り組んでいるか。 	
展開	Lesson3-1の復習 虫食い音読をする Lesson3-2 内容を確認する 語句を理解する 本文を音読する	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れずに発音や発表しているか。 教え合ったり、コミュニケーションをとりながらペアワークを進められているか。 本文を声に出して読めているか。 	
まとめ	振り返りとして ④について考える	<ul style="list-style-type: none"> バブルサッカーを理解しているか。 よりよいコミュニケーションについて、自分の意見をもち理由も述べられているか。 	

授業参観感想まとめ

授業者	実施時間	実施科目名	実施クラス
大釜美佳子先生、加藤英明先生	9月6日4校時	英語 I	1 A
良かった点について			
<ul style="list-style-type: none">・授業の流れが定着していて、生徒が戸惑わずに参加できていた。・本時の流れに沿ってテンポ良く学習が進められていた。・生徒がペアワークに自然に取り組んでおり、協働的な学習を行う雰囲気は完成していた。・テンポが良かった。・どんどん次に進むので、最後まで緊張感が保たれていた。・加藤先生の励ましの声かけが効いていた。・目的・ねらいが明示されていた。本時の流れも。・ペアワークが随所に入っていて、変化に富む。・TTの役割分担がスムーズ。・単語の理解、本文の読みについて、ペアで練習させて教師がチェックする流れは、達成感を持たせる上で有効。			
改善点について			
<ul style="list-style-type: none">・音読・発表とも声が小さい点にもう少しつつ込んでもよいのでは。・声が出ていなかったり、小さかったりするなど、「C評価」の生徒に対する手立てをどのようにしていくかが気になりました。・見所であるペアワークについては、課題は特になく、参考にしたい点ばかりでした。・グループワーク、ペアワークの一般的な課題としては、「授業中は理解している（しているように見える）が、テストをすると覚えていない」等、各自の理解にまで至らないケースがあるということ。授業で覚えたことを、長期記憶につなげる工夫が必要だと思っています。			
感想			
<ul style="list-style-type: none">・全体的に落ち着いて、よく取り組んでいた。スムーズに進んでいたが、生徒がおとなしいので、生徒が主になる場面を仕掛けて動かしても面白いかも。・TTの役割がしっかりとしており、TTが機能している授業であると感じました。・生徒の実態を踏まえて、工夫されたとても良い授業でした。・楽しい雰囲気で会話し、英語を楽しく感じられる授業でした。勉強になりました。・「授業のテンポの速さ」「（加藤先生が）指示を極力英語で行っている」等は、生徒の力を引き上げるためにやっているような気がして、そういう意味でも配慮の行き届いた授業でした。			

【 12 月 2日(金) 3 校時 2 年 A 組(場所: 201)】

授業者	小西 さなえ		
教科(科目)	芸術(音楽Ⅱ)	教材	プリント
単元名	イメージを音にしよう(創作)		
<p><授業改善の共通テーマ> ○「思考力・判断力・表現力等の育成に資する探究的な学習の構築」</p>			
<p><授業改善の共通ポイント> ①主発問：イメージを膨らませて作曲しよう～その1 コードからメロディを作る～ ②他者との協働：途中経過を聞き合う。 ③ICTの活用： ・作曲ツールとしてソングメーカー（クロームミュージックラボ内のアプリ）を使用 ・Gメールで作品を提出させる ④有効な振り返り：出来上がった曲のイメージを言語化する。</p>			
<p><本時のねらい> ・固定されたコード進行の中で自分の目指すイメージのメロディを作ることができる。</p> <p><本授業の見所（アドバイスいただきたいところ）> ・作りたい曲のイメージやできた作品の説明をする（イメージの言語化）段階で苦労する生徒がいると思われる。どのような助言が有効か。</p>			
学習活動		指導上の留意点・評価等	
導入	<p><前時の復習と本時の活動の理解> ・数名の作品を鑑賞して作品についての助言を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 音域・リズム・音色・テンポそれぞれに触れ、本時の活動に取り入れやすい助言をする。
展開	<p><作曲の方法を理解する> ・エルモを見ながら説明を聞く。</p> <p><制作する> ・目指すイメージを書き出す。 ・送られた課題を開いて制作する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 同じコード進行から様々なメロディが作れることを理解させる。 書き出したイメージが制作の方向性を決め、作品とセットで評価の対象となることを伝える。 目指すイメージが明確になるような助言をする。 制作中に他の生徒の過程を積極的に参考にするよう勧める。邪魔になったりそのまま真似をしたりすることのないように伝える。
まとめ	<p><提出する> ・できたところまで、説明を添えてメールで提出する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 正しく提出できるように声をかける。

授業参観感想まとめ

授業者	実施時間	実施科目名	実施クラス
小西さなえ先生	12月2日3校時	音楽Ⅱ	2 A
良かった点について			
<ul style="list-style-type: none"> ・作曲に取り組ませていることが新鮮で、かつクロームブックをこのように活用できることを知り、ワクワクしました。生徒も同じだと思います。 ・楽器がなくても、演奏できなくても作曲ができることがわかって、楽しんでやっていたこと。 ・音譜が読めなくても感覚的に操作できるので誰でも創作活動を楽しめる。 ・生徒が意欲的に取り組んでいる。 ・『ソングメーカー』を使った授業ができていることが、すでに成功。 ・生徒の作品（『きらきら星』をアレンジしたもの）へのアドバイスが適切。 ・「何となく作った曲」（生徒談）を褒められて、嬉しそう。 ・作曲のステップを明示している、その内容が分かりやすい。 ・この単元自体の流れがスムーズ。 			
改善点について			
<ul style="list-style-type: none"> ・提出した『きらきら星』のアレンジ曲の紹介を生徒自身ができそうだなと思いました。 ・純粋に音楽（音）としてのものなのか、色やデザインだけで考えたものでも音を鳴らした時に面白いものができていればそれも「良」なのか、不明だった。 ・小西先生が「アドバイスいただきたいところ」で書いた助言について、「作曲、あるいは授業自体のルールを守らせるための助言」と、「作曲活動そのものについての助言（肯定的な助言）」が必要だと思いました。 			
感想			
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の授業の幅の変化に感動しました。休み時間も熱心にこの作曲に取り組む生徒の姿を見ていたので、興味・関心を引き出し表現させるこの活動は大変参考になりました。 ・情報のプログラミングに共通する内容で、とても参考になった。 ・生徒たちは楽しそうに活動していたのが印象的でした。ただ評価がどうなるのか、生徒同士の相互評価？自己評価？先生による評価？観点は？・・・と考えると評価の難しい單元かなと思いました。 ・小西先生のねらい通り、『ソングメーカー』を使うことで生徒が様々なバリエーションの作曲ができていて、音楽の楽しさをみんなが感じられる授業だった。 ・「今から作曲するよ」と言われると構えてしまいそうですが、とても「作曲」の敷居を低くしてくれる授業だった。 ・この授業は音楽（作曲）が得意な人も苦手な人も認め合う雰囲気があって、とてもよい授業だと思いました。 			

令和4年度 インターンシップ実施報告

2年学主任 進藤 健悟

今年度も、多くの事業所の協力を得て、インターンシップを実施することができた。コロナ禍であり、受け入れてくれた事業所には、負担と難儀をかけたことを感謝したい。また、例年と違い8月初旬に実施した。事前事後指導が容易であること準備期間がとれやすいことなどからである。

さて、このインターンシップを経験することで、労働の意義・意味、社会性の会得・向上、体験することの重要性を確認することができると思う。事前指導にご協力いただいたさんぽうからは、敬語の使い方や電話の応対を学習した。事後指導での礼状の書き方で、礼状の必要性や、文章の書き方を学習した。たった数日間ではあったが、有意義であったことは確かである。また、事業所によっては、すぐにでも働いてほしいとお褒めの言葉をいただいた。事前指導や平時の指導が十分だったと思えるものだった。

この経験を、進路実現へ活用することこそ、実施の意義であると考えている。

- 1 実施日 令和4年 8月2日(火)～4日(木)
- 2 参加生徒 2年男子 12名 2年女子 4名
- 3 実施内容
オリエンテーション
企業研究
希望調査
事前学習(さんぽう)
直前指導
事後指導
報告会
- 4 実施企業
陸上自衛隊、ブックスモア大曲店、
社会福祉法人大空大仙すくすくだけっこ園、
西仙北ぬくもり温泉ユメリア、雄和市民サービスセンター
愛幸園、コメリパワー大曲店、株式会社宮原組、
マックスバリュ刈和野店、ありす刈和野
ヤマト運輸秋田御所野センター

5 生徒の感想（抜粋）

【接客】

いつでも、どんなときでも挨拶と笑顔は大切だと思った。私はお客様への挨拶や対応での声量が小さかったので、今後の生活では、はっきりといえるように気をつけたい。

【自衛隊】

わからないことがあったら積極的に質問することが大事だと感じた。何も質問せずに曖昧な状態で動くと大きな失敗につながるからです。

【接客】

商品の陳列、品出しは重労働で大変だったが、お客様から「頑張ってるね」と声をかけていただいて、仕事にやりがいを感じました。挨拶の大切さを痛感し、今後の生活に生かしていきたいです。

【介護】

普段からの挨拶や言葉遣いに気をつけておくことが大事だと感じた。当日、すぐにできるわけではないからです。

【接客】

従業員の方から、仕事に向かう姿勢や気持ちを学ぶことができました。よいものを提供したい、よいサービスを提供したいという気持ちが伝わり、大切であると感じることができました。真心を持って仕事をするとお客様も職員の真心を感じ取ってくれるから仕事も楽しいものになるということを学びました。

【配送】

インターンシップを通して学んだことは、コミュニケーションが大切だと言うことです。日頃から、チームワークや声掛けをして、コミュニケーションをとるようにしたいです。

【土木・建築】

インターンシップでは、挨拶の重要性と、時間のやりくりの大切さを痛感した。特に、時間のやりくりには、臨機応変さが求められた。

【サービス】

日常生活から、急な仕事でも請け負ったり、不意な質問にも迅速に答えられるように、鍛えておかななくてはいけないと感じた。苦手な業務に関しても、地道に努力できる精神力が必要だと思った。

【販売】

積極的に質問することによって、わからないことを解決でき、不安なまま業務をすることがなかったので、よかったです。これにより、性格に業務をこなすことができ、職場の方から褒めてもらいました。

令和4年12月22日

国際交流委員会

令和4年度デンマーク社会福祉研修 実施要項

- 1 期 間 令和5年1月8日（日）～15日（日）
- 2 場 所 デンマーク王国（ボーゲンセ、オーデンセ、コペンハーゲン）
- 3 目 的
 - ・福祉先進国デンマークを訪れ、社会福祉の仕組みや考え方について学習する
 - ・介護福祉施設・小中学校等の視察・ホームステイ体験・北フン島高校の授業体験と同校生徒との交流を通して見聞を広め、語学力や異文化理解力・コミュニケーション能力を高める
- 4 現地の受け入れ体制
 - ① ノーフュンスホイスコーレ（旧日欧文化交流学院、以下“学院”と略）へ短期留学し、同学院のカリキュラムに沿って日本人・デンマーク人講師による講義や施設見学等の研修を受ける。宿泊は同学院の寮を利用する。
 - ② デンマーク滞在期間の内2泊は、北フン島高校職員・生徒などの自宅へホームステイする。
- 5 派遣生徒 2 A佐藤 陽 1 A伊藤広野 1 A小松弘人（以上3名）
- 6 引率者 教諭 加藤 英明 教諭 大釜美佳子
- 7 旅行者（国内） （株）JTB秋田支店 （担当：田高 直子 氏）

Tel: 018-862-6193

8 研修日程

1/8(日)	12:20	J R大曲駅集合	
	12:46	こまち 24 号にて J R 東京駅へ	
	16:32	成田エクスプレスにて成田国際空港へ	
	22:30	エミレーツ航空 EK0319 便にてドバイ国際空港へ	
1/9(月)	05:30	ドバイ国際空港着	
	08:30	エミレーツ航空 EK0151 便にてコペンハーゲン空港へ	
	12:30	コペンハーゲン空港到着	
		空港からノーフェンス・ホイスコーレへ移動	
	18:00	ノーフェンス・ホイスコーレ着予定	<ノーフェンス・ホイスコーレ寮宿泊>
1/10(火)	09:00	講義「デンマーク概要」	
	13:00	視察訪問	<ノーフェンス・ホイスコーレ寮宿泊>
1/11(水)	08:30	視察訪問	
	13:00	北 FYN 島高等学校・講義・クラスへの統合	
	16:00	ホームステイに出発	<ホームステイ宿泊>
1/12(木)	08:30	終日・北 FYN 島高等学校プログラム	
		ホストファミリーとの食事会	<ホームステイ宿泊>
1/13(金)	08:30	北フュン島高等学校駐車場集合 専用バスにてコペンハーゲンへ	
	14:20	エミレーツ航空 EK0152 便にてドバイ国際空港へ	
	23:45	ドバイ国際空港着	
1/14(土)	02:55	エミレーツ航空 EK0318 便にて成田国際空港へ	
	17:20	成田国際空港着	
		成田エクスプレスで東京駅へ	
		京王プレッソイン大手町着	<ホテル宿泊>
1/15(日)	08:40	東京駅からこまち 9 号にて大曲駅へ	
	11:52	大曲駅着	
		解散	

視察訪問については、幼稚園と青少年特別教育支援施設を予定しています。

「研修を振り返って」

引率 加藤 英明

今回の研修を無事終えることができた。引率職員として、そして一人の研修参加者として、この2つの視点から本研修について振り返ってみたい。

今回のデンマーク社会福祉研修は、3年ぶりの実施であった。2年間のブランクがあったのは、もちろん新型コロナウイルスの流行によるものである。今回も中止となる可能性は十分にあった。しかしデンマークをはじめ多くの国々が通常の行動様式に戻っていたことと、日本においてはマスク等の感染予防はなされているが、行動制限が課されていないことにより、実施にこぎつけることができた。

ただ例年との一番の違いについて記すならば、直通便がないことで往復の移動にかかる時間が大幅に増えてしまった。このことにより、これまで5日間だったデンマーク内の研修期間を4日間に短縮せざるを得なくなった。さらに長時間のフライトは体力的にも厳しいものだった。幸いにも帰国後も含めて体調を崩す参加メンバーはおらず、コロナに罹患せずすんだことは本当に良かったと安堵している。そして無事大曲駅に到着し、生徒が家族の顔を見て柔らかな表情も浮かべたのを見て、最低限の責任を果たすことが出来たと実感した。

続いて研修に参加できた者としての感想であるが、私自身海外旅行の経験が少なく本当に貴重な体験をさせてもらったと感じている。デンマークの街並みは本当に美しく、今でも記憶に強く残っている。私達がヨーロッパの風景としてイメージする町並みがまさに目前にあり、そのことが日本から遠く離れた異国にいることを強く意識することにつながっていた。

またデンマーク王国に関してノーフェンスホイスコレのモモヨ・ヤーセン氏より様々なことを教えていただいた。私たちはデンマークのことを「世界一幸福な国」などと安易に呼んだりするが、当然今の状況に至るまでには多くの努力の積み重ねや様々な歴史があり、彼女の説明にはこの福祉システムを築き上げた自国デンマークに対する自尊心に溢れていたように思う。

さて、私が本研修を通じてデンマークについて学んだことはふたつにまとめられる。ひとつは多くの方がすでに知っている優れた福祉制度についてである。福祉はもちろん、教育や医療も含めて、国が責任を持ってそのサービスを提供してくれる。このことは様々な税金が高いことにより実現していることであり、モモヨ・ヤーセン氏によれば、「返してもらおう」という意識らしい。蛇足であるが、デンマークで日本車を購入するとその価格は日本での定価の3倍ほどになってしまうようだ。

もうひとつは多様性を受け入れ、個人が尊重されていることである。日本のように協調性が重視される社会ではなく、ひとりひとりの存在が大切にされていると感じた。教育においてもこのことが根幹にあり、例えば学習においてまだ十分な実力がないと判断されれば、躊躇なく留年させる。同じペースで進むのが大切なのではなく、必要な能力を確実に向上させることに主眼が置かれていた。

高福祉であることで将来に対する不安から開放され、そのことにより今現在の生活を楽しみ充実させている、これが私のデンマークの人々の印象である。

「デンマークでの出会いと学び」

引率 大釜 美佳子

コロナ渦ではバーチャル技術が進化し、私たちは自宅で様々な仮想旅行経験をすることができます。動画や写真の中にも発見があるので、そこで得ることも多くあります。しかし、実際に海外へ行き、失敗を恐れず挑戦して得られる成長の素晴らしさを改めて感じることができました。例えば、初日には思いつき緊張してうまくしゃべれなかったとしても、次の日は失敗を恐れずに片言から積極的に話しかけてみると、そこで交わす会話から1語ずつボキャブラリーが増え、身振り手振りのボディランゲージや写真を見せて伝えようとする中でさらに会話が弾むようになっていくという経験です。このようにして私たちが得られたデンマーク福祉研修での出会いや学びのいくつか紹介したいと思います。

ノーフェンスホイスコーレで出会ったのは、副校長であり今回の研修のコーディネーターであるモモヨさんです。日本語や英語よりもデンマーク語の方を流量に話し、聡明さとエネルギーを感じさせる口調と、周囲から信頼され慕われている様子に、同世代ながらカッコよさを感じさせる人でした。なぜデンマークに来たのか興味をもちお話を聞くと、北海道に住む高校生だったモモヨさんは新聞記事を読んで感銘を受けたこの学校の創始者である千葉忠夫さんに手紙を書き、高校卒業後すぐにデンマークに行った行動派ということも分かりました。デンマークで30年以上暮らすモモヨさんは、日本の「こうあるべき」「一つの正解を求めがちな考え方」に対し、デンマークには「これがスタンダード」といった考え方がなく、他人からの評価などに焦点を当てず、「自分はどうかりたいのか」を大切にしている文化があることを教えてくれました。また、同じく終戦を迎えたデンマークと日本ではあるけれども、デンマークは生活福祉に、日本は経済にベクトルを合わせて成功してきた過程があることを説明しながら、「デンマークは経済よりも生活福祉の向上の方を優先してきたし、デンマーク人は日本人よりささやかなことも幸福だと捉えているから、幸福度ランキングで比較したり、過程を考えずに今だけの結果を切り取るのは違うような気がする…。日本の経済力は素晴らしいのよ。」と。文字やデータのような情報よりも、そこで暮らす人と実際に会話をする中で得られる納得感や日本についての再発見もありました。

また、ノーフェンスホイスコーレの学生さん達からも得ることが多くありました。日本人を含む外国人生徒だけでなく障害がある人も授業や寮生活を共にしており、私たちもそこに加えてもらいました。入学理由や国籍や年齢もバラバラで多様性が溢れ、短期滞在の私たちにも関心をもってくれました。初めて見る料理の食べ方を教えてくれたり、一緒に食事をしようと声をかけてもらったりと、お互いを認め受け入れ合う雰囲気がありました。社会に求められるスキルを身に付けるのではなく、自分自身の内側にある幸せや関心について学ぶために集まっていることが、「ホイスコーレ」が「人生の学校」とも呼ばれる理由だと思いました。そして人生に迷ったときに一歩立ち止まることができる環境がそこにあるということも知ることができました。

さらに、ホームステイを受け入れてもらったイエベ(デンマークでは先生のこともファーストネームで呼びます)とそのファミリーからは、仕事とプライベートの価値観の違いを学ぶことができました。イエベは北フュン島高校の副校長で、医師である奥様のロニーと9歳と6歳の子どもたちと暮らしています。イエベは授業が終わると退勤し、子どもたちを小学校へ迎えに行き、夕飯の支度を始めます。そ

の頃にロニーが帰宅し、2人で夕食の準備をしながら私や子どもたちの話も聞いてくれます。子どもたちは、本を読んだり、タブレットで音楽を聞いたり、私とおりがみで遊んだり、ゆったりとした時間が流れます。デンマークでは、労働環境が8時～16時までの週37時間と制度として決められており、残業という概念もほとんどありませんでした。プライベートを充実させることが社会活動の向上につながるという考えや、仕事以外の時間は家族と過ごしたり自分のために充てていることも知りました。このような時間や心の余裕がデンマークなのかもしれないと思いました。

これらのことを通し、学ぶことや生活することを心から楽しむために努力するデンマークの価値観に魅力を感じ、私自身の気づきとして毎日の学びや生活を楽しむことを忘れずに大切にしたいと考えています。そして3年ぶりに行われたこの研修に参加した生徒たちが生き生きとした表情で頼もしく成長していくのを、何よりも嬉しく感じました。多くの方々に支えられたこの研修を無事に終えることができ、ほっとしています。ありがとうございました。



参加研修報告書

R4.9.16

教諭 佐々木 満

参加研修：令和4年度総合教育センター研修講座「B-1講座」

「各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実」

実施日時：令和4年9月8日（木）10時00分～16時15分

場所：秋田県総合教育センター

<日 程>

- (講義) 10:15～11:15 言語活動を位置付けた指導の実際①
秋田県総合教育センター指導主事 物部長 幸
- (協議・演習) 11:30～12:00、13:00～13:45
言語活動を位置付けた指導の実際②
秋田県総合教育センター指導主事 物部長 幸
秋田県総合教育センター主任指導主事 藤谷 寛
- (公開講演) 14:00～16:00 各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実
秋田大学大学院教育学研究科 教授 成田 雅 樹

<概要>

○言語活動を位置付けた指導の実際①

・言語活動の充実が提起された三つの重要な契機

- ①「学力」に関する国際的な動向の変化－1990年頃から資質・能力ベースで教育が論じられ、知識基盤社会の到来、グローバル化が進展し、変化に対応していく能力育成が求められるようになる
- ②国内外の学力調査の結果－PISA調査において、日本の読解力の低さが注目された
なお、PISAの読解力の定義は「情報を探し出す」「理解する」「評価し、熟考する」を総合したもの。
- ③平成19年の学校教育法の改正－「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するための必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」（第30条）

→平成20年学習指導要領において「言語活動の充実」が掲げられた

・学習指導要領と言語活動の充実

- 平成20年版－生きる力を育む言語活動
- 平成30年版－資質・能力を育てる手立てとしての言語活動

・言語活動設定のポイント

- ①言語活動の有用性—言語を基盤としたアウトプットをする
e x) ラーニングピラミッド—学習定着率、「講義」では5%だが「議論・話し合い」だと50%、「他者に教える」は90%
- ②国語科を要とし全教科で行う
- ③手立てとしての言語活動である
- ④各教科等の目標や特質に応じて具体化する
- ⑤長期的な見通しをもって繰り返す
- ⑥評価の方向性—言語活動は目標実現の手立てであるから、評価の直接的な対象ではない。言語活動を通じて思考・判断した課程や成果を目標に照らして評価していくことが必要

○言語活動を位置付けた指導の実際②

- ・資質・能力の育成と言語活動の充実について、同一教科の先生方（高校地歴公民、中学社会）と意見交換を行った。中学校では、各教科共通の取り組み体制が徹底している。「学習課題→予想→追究活動（自力思考→集団思考）→まとめ→振り返り」という流れの授業を実施したり、ハンドサインを工夫して全員が意思表示できるようにする（「わからない」というサインもある）取り組みがあった。他教科では、上位の子が興味を持つ課題設定（中学国語）、パワーポイントで生徒がスライドを作り発表（中高英語）、問題の解法の説明（中高数学）等があり、「生徒同士の相互評価はあてになるのか」という話題も出た。
- ・物部指導主事からは、言語活動の妥当性・効果の検証の仕方の提案があった。それは授業作りの最初に、「本時のねらい・目標」だけでなく、この授業でたどりつかせたいゴールである「評価」をシンプルに設定すること。そうすると、これに導くための手立てとしての言語活動が作りやすくなる、ということだった。

○各教科等の指導における資質・能力の育成に向けた言語活動の充実

- ・言語活動の充実において必要なこと
 - 自分の活動をメタ認知させる
 - 生徒自身に考えさせ、調べさせ、発表させる（教えない）＝レクチャー型にしない
- ・言語活動の4領域（話す・聞く・読む・話し合う）について
 - 秋田の探究型学習—特に「話し合う」が重視されている
 - 話し合いの活動形態—ペア学習を基本として混在型のグループ編成をすると、学力下位者は学力が伸びやすい
 - 話し合いの4原則＝即時性・具体性・公平性・共感性
 - 判断力を育てる質問の仕方—閉じた問い（2値的問い、「AかBか?」「YesかNoか?」）→開いた問い（多値的問い、「なぜ?」「どのように?」）の順で行う
 - 思考力を育てるには—事実確認発問と情報の取り出しから先へ
事実と原因/判断と根拠/主張と意図を述べさせる

< 感想 >

言語活動は、私たちが普段の授業で実施していることであるが、今回の講義・演習を通じて「ねらい・目標（スタート）→評価（ゴール）」を導く手立てとの認識を持った。また中学校の先生方との協議は、学習の接続の意味で、また自分の視野を広げる意味で有意義であった。成田先生の講演では、今まで自分が授業で2値的問いに留まっていたことに気づき、多値的問いを心がけ、実践していきたいと感じた。

校内研修(ICT の活用について)

情報部

日 時 令和4年6月16日(木)15:40～16:10

令和4年6月17日(金)15:40～16:10

(2日間とも同じ内容で実施)

内 容

Google workspace for Education の活用方法について(生徒への課題)

目 的

生徒配布の一人一台端末の使用にあたり、教職員も実践的な使用方法を体験するとともに、Google workspace for Education の機能を、授業をはじめ様々な場面で有効に活用できるように学ぶ。

その他

Chromebook を一人一台持参すること。事前に各自の教員用アカウントにログインし、Gmail から「令和4年度西仙北高校職員」のクラスルームに参加しておくこと。

目標:生徒に対して、オンラインで取り組む学習課題を出すことができるようになる。

- ・生徒の多様な力を育てることができる。(=評価方法、機会)
- ・デジタル化により利便性が向上する。
- ・オンラインでの学習が可能となる。

1 Classroom の作成について

- ・新たに作成する
- ・各クラスのものを利用する

(・本日は研修用を利用する)

2 課題の形式と出し方について

- ・forms
- ・ドキュメント、スプレッドシート
- ・その他

3 オンライン学習について

感想

Google の Classroom を活用した、オンラインの学習方法を学んだ。実際に機器を操作したり課題を作成したりしながら学ぶことで、実践的な研修となった。研修の内容をもとにして、授業改善を進めたり、生徒の学習習慣の定着を図ったりすることが期待される。

小テスト作成(例)

1 次の図を見て、熱中症の応急手当などについて答えなさい。

(1) 図のイラストと例を参考にして、軽症で意識があり嘔吐がない場合の熱中症の手当のポイントを3つ答えなさい。

(イラスト以外の手当でも可)

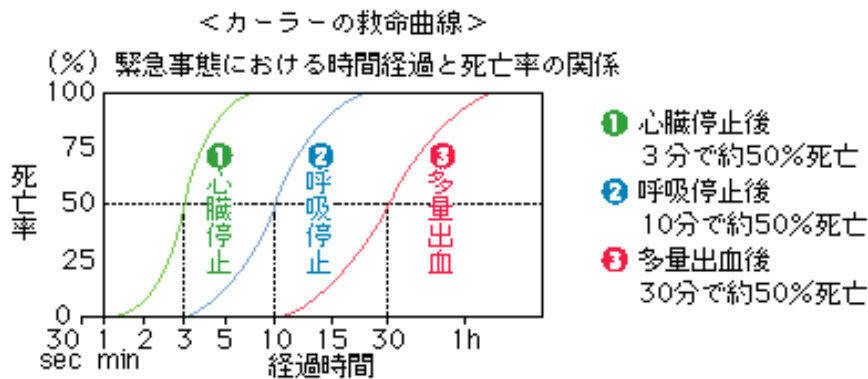
例: 木陰など涼しい場所に運ぶ

(2) 熱中症では、症状が軽いように見えること、応急手当によって回復したように見えることがある。しかし、あとから呼吸障害や腎臓障害が出現することもある。このようなことを防ぐため、応急手当の他にどのような対応が必要か。



(1)			
(2)			

2 次の図は、緊急事態に何もしなかった場合における経過時間と死亡率の関係を示した図である。図を見て、次の問いに答えなさい。



資料) M. Cara 1981. 「カーラーの曲線」より

(1) 呼吸が停止してから10分後、何もしなかった場合に命が助かる可能性は約何%か書きなさい。

(2) 大仙市消防本部によると、大仙市では救急車が到着するまで約 10 分かかります。このことと、図を関連付けて、あなたが考えたことを書きなさい。

(1)		%
(2)		

- 1 日時 令和4年7月21日(木) 14:00～16:00
- 2 場所 商業実習室
- 3 講師 秋田県教育庁生涯学習課 進藤 尊信 先生

<概要>

1 そもそも「コミュニティ・スクール」「地域学校協働活動」とは？

「コミュニティ・スクール」とは「学校運営協議会」制度を導入した学校のこと。
「地域学校協働活動」とは地域と学校が相互にパートナーとして連携・協議して行う様々な事業。

2 なぜ必要になってきたか？

社会の変化…子供たちの65%は今は存在していない職業に就くようになる
地域・学校の変化…(例) 地域における地縁的なつながりの希薄化。
少子化・核家族化。
保護者の学校に対するニーズの多様化。
教育に関わる課題の複雑化。

3 コミュニティ・スクールをめぐる現状

秋田県の導入率…53.4%

4 熟議の重要性

熟議とは熟慮と討議であり、学校の先生以外の様々な立場の関係者が集まるということが重要である。定型があるわけではなく、多くの参加者の意見交換・考えを深めることが目的。

5 効果と先行例

(先行例)

- ・ 学びによる町作り・地域課題解決型学習・郷土学習
- ・ 放課後子供教室
- ・ 地域未来塾

(効果)

- ・ 地域住民が学習支援などを通じて子供の教育に関わっている学校では、学力テストの結果が高い傾向にあるようだ。
- ・ 活動を通じて地域住民同士のコミュニケーションも深まる。
- ・ 定着すれば教員の負担減も期待できる。

<感想>

この研修を通して、これまで学校・地域・家庭それぞれの中だけでできていたものが核家族化、学校の生徒・職員の減少、地域の若者の減少など様々な要因により十分に機能しなくなってきたという時代背景の中でコミュニティ・スクールの制度が作られたことが多くの例から理解できた。その点を踏まえると、協働活動も特別なことではなく、生徒をより豊かに育てるために異なる立場の人が協力するという理にかなったことであり、是非有効に活用したいものである。そのためにも、一人一人が考えをもって参加することが不可欠であると感じた。

令和4年8月9日

職員研修（地域探究巡検）実施要項

研修部

- 1 目的 西仙北地域の史跡や観光地について理解を深め、教科「地域探究」の教材研究などに役立てる。
- 2 場所 西仙北地域各所（大仙市アーカイブズ、強首温泉樅峰苑、強首演習場など）
- 3 対象 教職員7名
- 4 日程（予定）令和4年8月10日（水）
※各自の自家用車で移動。先導車（高木先生の車）の誘導に従って移動する。
13：00～13：20 本校から大仙市アーカイブズに移動
13：20～13：50 大仙市アーカイブズ訪問
14：00～14：20 強首温泉樅峰苑訪問
14：20～16：00 強首演習場等訪問
→帰校
- 5 その他 ・動きやすい服装・飲み物を準備しての参加をお願いします。

令和4年8月10日（水） 職員研修（地域探究巡検）について

○見学先について

見学先①大仙市アーカイブズ

旧双葉小学校の校舎を改修して平成29年（2017）5月3日に開館。

全国で73番目の地方自治体立のアーカイブズ施設であり、市町村立施設では東北初。

見学先②強首温泉樅峰苑（旧小山田家住宅） 【国登録有形文化財】

この地の豪農・小山田家の邸宅として大正6年（1917）に建てられた建物で、屋根の千鳥破風と軒唐破風付き入母屋、むくり破風の玄関が豪壮な正面を造っています。大正3年（1914）にこの地を襲った秋田仙北地震（強首地震）の教訓を生かし、耐震構造を意識して設計されています。1階大広間4室の中央の柱を取り外し可能な構造とするなど珍しい工夫が施されており、構造的に優れた技術がみられます。

市指定天然記念物「モミの木群」や市指定文化財「茶弁当」「小山田治右衛門家文書」も見ることができます。 (『にしせん book』)

「小山田治右衛門家」

仙北で屈指の強首村の大地主で、明治二三年（1890）には強首村全耕地の40%を持ち、淀川村や荒川村・北檜岡村・峰吉川村、さらに河辺郡にも大奥の土地を集積していたと言う。小山田氏の出自は明瞭ではないが、菅江真澄の『月の出羽路』には、「小山寺は此強首村の里正小山田氏に創る、また此仙北の郡に小山田村あり、小山田氏の祖は其村にゆえよしやあらむ」とあり、西木村西明寺の小山田村を指摘している。小山田は中世の戸沢氏一族の小山田氏領で、戸沢国替えの際に「旧国を離れ難く思い仙北へ残り」という者もいた。戸沢の小山田氏の流れを汲むものだったのであつたらうか。

寛文十二年（1672）抛人を引き受けて以来、強首村の抛人、肝煎を勤めてきた由緒ある家柄である。そして天保年間には、酒造業も創め、安政元年（1854）には、「夏酒諸味 四拾四石、水酒式拾七石五斗」（小山田文書）を醸造し役銀三百五拾七貫余の上納を酒造方に求められている。酒造米は主に土地集積で得られた小作米によるものと考えられる。・・・ (『西仙北町史 先史～近世編』 p.660)

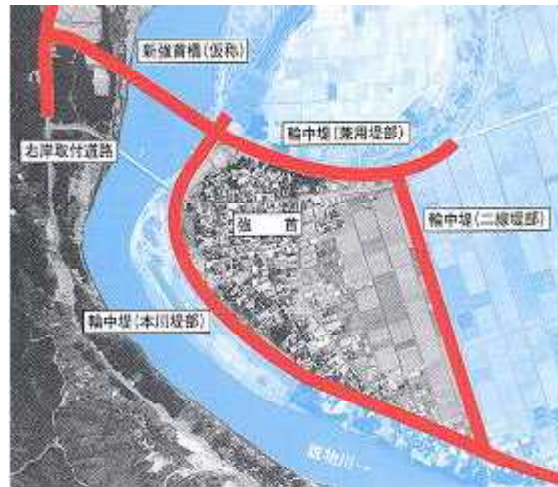
見学先③強首輪中

「強首輪中堤10月に竣工！（竣工式開催のご案内）」

一級河川雄物川の中流部にあたる西仙北町強首地区は、無堤部のためこれまで幾度となく洪水による水害の被害を受けており、昭和62年8月発生洪水では西仙北町全体で床上浸水家屋88戸、床下浸水家屋112戸等甚大な被害を受けました。

国土交通省ではこれを契機に、洪水被害の解消を目的とした治水事業と地域の町づくり事業とをタイアップした強首輪中堤事業を平成5年度から実施してきましたが、来る10月に事業竣工の運びとなったことから、「竣工式典」を開催することにしましたのでお知らせします。

【氾濫原と輪中堤整備箇所】



(「国土交通省東北地方整備局湯沢工事事務所 平成14年10月8日記者発表資料」
http://www.thr.mlit.go.jp/yuzawa/kawa/osirase/kowakubi_syunkou/kowakubi_syunkou.htm)

強首地区では雄物川が極度に屈曲して流れているため、連続堤防の整備を行うと、距離にして15キロ、約30年の期間がかかる。そのため、雄物川沿いの本川堤、集落と水田を隔てる二線堤、県道を通した兼用堤の3本の堤防で集落を囲む輪中の方法で期間を7年にすることができた。輪中といえば濃尾平野のものが有名だが、東北地方では初となる。

見学先④歩兵17連隊強首演習場トーチカ跡

平成30年に西仙北中学校の「総合的な学習の時間」でこの演習場について調査しまとめたものを各所で発表しています。



刈和野名物
和栄堂のハードな
ソフトクリーム



刈和野名物
田村商店の
だいせんのハンバーガー

職員研修(地域探究関連)について

☆8月10日(水)13:00~16:00に、別紙要項・資料のとおり、地域探究関連の職員研修を実施した。詳細は以下のとおりである。

①大仙市アーカイブズ(蓮沼素子副主幹の説明)

- ・大正3年に強首地震が発生している。
- ・デジタル資料としては、蛭川の渡し、ソリによる移動、農村の生活(お歯黒の人)などがある。
- ・井上一郎さん(アマチュアカメラマン)の方の写真が多い。農村の暮らしを撮影した方で、全部の作品を寄贈している。
- ・大仙市8地区の広報写真をデジタル化する作業をしているが、現在作業が終了しているのは旧大曲市と、旧仙北町の一部。
- ・ホームページに収蔵資料の目録が公開されている。申請書を出せば見れる。
- ・明治29年に六郷地震、大正12年に関東大震災の被災者受け入れをしている。その資料もある。
- ・資料の写真は何枚撮ってもよいが、事前に申請が必要(何枚撮るかも含めて)。
- ・デジタル資料については、CDロムの形でデータを渡すことができる。CDロム1枚につき100円かかる。
- ・行政刊行物、調べ物用の一次資料を置いてある。コピー可能だが、1枚10円かかる。
- ・展示室が3つある。元の双葉小学校校舎を利用している。ミニ展示室もある。
- ・双葉小学校は平成12年~13年で建て替えをした。そして平成23年に閉校。その一方で公文書館を設立する構想が出てきて、校舎をそのまま使う形になっている。
- ・資料の閲覧室は、小学校の集会などで使う多目的室を利用。ただ上から太陽光を取り入れるようになっていたので、資料保存には不向き。そこでUVカットのフィルムを建物上の窓に貼るなどして、遮光している。
- ・小学校の体育館が大書庫になっているとのことで、見学をした。
- ・本が全部で19万冊入る大きさ。本の重量に耐えるため、建物の補強工事をしている。現時点では一部の資料が入っているのみ。
- ・室内の湿度が65%を超えるとカビが発生する。そうならないように空調などの配慮をしている。
- ・展示室には秋田藩・山形藩の絵図がある。秋田藩の一部(森吉のあたり)が欠けているのは、絵師が江戸住みで秋田の情報にうとかったため。また強首演習場についての資料もある。
- ・強首地震についての写真は、神宮寺の細谷誉司さんが撮影したもの。
- ・樅峰苑は、大正3年に強首地震の被害にあい、建て替えをした。
- ・3つの藩境(秋田藩、矢島藩、亀田藩)についての絵図がある。また雄物川についての絵図もあった。
- ・大曲の偉人である榊田清兵衛の展示と、払田柵跡についての展示があった。
- ・田口松圃(しょうほ)についての展示あり。祖父が刈和野出身で、大曲町長になった人物。早稲田大学政経学部に入學するも、文学に傾き退学させられた。カメラを持っていて、その写真も展示している。大曲駅を現在の位置に移転させている。
- ・平福百穂が松圃の父の絵を描いている。
- ・秋の展示は、感染症に関するものになる予定。
- ・西仙北の資料をアーカイブズに置くのは、まだ先のことになる予定。

②強首温泉樅峰苑(代表取締役社長小山田明氏の説明)

- ・温泉施設で文化財となっているものは少ないが、樅峰苑はその一つ。
- ・大正3年の強首地震、震度7で壊れたが、木造2階建てで建て直した。
- ・小山田家は、400年あまり前、佐竹の殿様と一緒に秋田に来た。肝煎としての役割と、藩の境を守るための役割を果たしていた。
- ・入ってすぐに土間がある。
- ・耐震工事をしているが、耐震のためのくさびが建物内側に露出しているのは、珍しい。
- ・柱は秋田杉を使用している。小山田家の持ち山から切り出したもの。
- ・縁側の板材は、秋田杉の巨木(16メートル)を使用している。
- ・多くの柱は、地中から最上端まで切っていない、通し柱。時間が経って、柱が曲がったりしないように、わざと片側真ん中に割れ目を入れている。
- ・障子に大正ガラスを使用。波打つ見え方をする。
- ・障子で仕切られている大部屋の真ん中の柱は通し柱ではなく、カモイを操作すると取り外しできる。
- ・欄間は多様なデザインのもが見られる。
- ・障子の棧(さん)が90度ではなく、下に傾いている。これは「ちり落とし」といい、ゴミが貯まらないようにしている。また明かりが外から入りやすいようにしている。
- ・襖は、100年以上前のもの。
- ・旅館二階への階段は、洋風のデザイン。大正初期に見られたもの。青森の斜陽館にも似たものがあり、あれは明治後期に見られたもの。
- ・庭に5本、樅の巨木があるが、これは天然記念物。樹齢400年で樹高30メートル。角館の武家屋敷にも樅の木がある。江戸時代に京都から北前船で運んだらしい。
- ・コロナ前は外国人観光客が多かった。
- ・昭和41年に、家族会議を経て旅館業を始めることにした。その頃から旅館近くに湯が出ており、それを温泉とした。平成20年に、旅館すぐ近くに新たに湯が出てきた。源泉掛け流しの湯を供給できている。
- ・湯はヨウ素泉。最近、温泉の種類の一つとしてカウントされるようになったもの。空気に触れるとウグイス色になる。消毒効果あり。昔の海の層(地下800メートル)から湧き出ている。
- ・モクズガニ料理が評判である。

③トーチカ

- ・発見してから75年ほど経つ。
- ・小学校中学校、マスメディア等が撮影に来る。草刈りをして迎えるようにしている。



第6回職員研修

心と体のストレッチ講座

記録：湯澤美千代

- 1 日時 令和4年12月12日（月） 13:30～14:30
- 2 場所 多目的ホール
- 3 参加者 職員10名
- 4 ねらい 日頃の運動不足を解消し、心も体も健康にする。
- 5 講師 フィットネス・ゴルフ フィールド 山崎 啓輔 氏
- 6 内容 ①ダンス&ボクササイズで楽しく汗をかこう！
②ヨガの動きでストレッチ

7 感想等

いきなり始まったボクササイズに戸惑いながらも、なんとか講師の動きについていこうと奮闘し、でも何だか格好悪い自分に苦笑いしながら、たった数分で汗がにじみ出てきた。続いてのヨガでは、全身のストレッチで日頃全く使っていない筋肉を伸ばすことができ、とても心地良い時間であった。翌日、参加した先生方と全身筋肉痛の話で盛り上がり、心も体もリフレッシュした研修となった。

～参加した先生方の感想～

- ・ どういう運動がどこの部位に効果的なのかを示しつつの進行で、とても参考になった。
- ・ 日頃自分の身体の動かし方や姿勢等に関心を払わずに過ごしているので、今回の研修は大変有意義だった。精神的なリフレッシュにもなった。
- ・ 前半動きについて行けなくなりましたが、良い運動になりました。
- ・ 最後まで沼にはまってました。
- ・ とても楽しい時間で1時間があっという間でした。高齢化が進む秋田県ですが、健康寿命 NO.1 を目指してこれからも運動を楽しみたいと思います。



校内研修(統合型校務支援システムの運用に向けた研修)

情報部

1 目的

来年度から導入される統合型校務支援システムの円滑な利用のために、研修講師の説明を聞き、利用方法を理解するとともに、実際にシステムを操作することで、システムの体験をする。

2 内容と日程

(1)保護者連絡システム

1月25日(水) 14:00～17:00

(2)校務支援(新年度準備)

2月17日(金) 10:00～12:00

(3)共通(グループウェア)

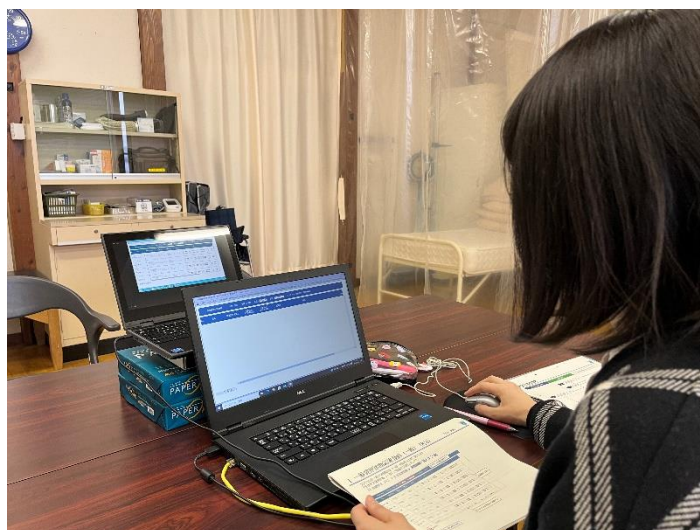
2月27日(月) 14:00～15:00

(4)校務支援(保健)

3月13日(月) 14:00～17:00

(5)校務支援(カスタマイズ機能)

3月28日(火) 14:00～15:00



3 場所

会議室、商業実習室、保健室

4 参加者

出席必須の職員に加え、他の職員も可能な限り出席する

5 受講方法

- ・PC1台を ZOOM に接続し、オンライン研修を視聴する
- ・個人の PC を業務系に接続し、操作を体験する
- ・視聴に参加できなかった職員は、後日 youtube で視聴する
- ・質問事項はとりまとめて送信する

6 まとめ

オンライン研修の受講と操作体験によって、多くの職員が大まかな操作を学ぶことができた。今後は、各校ごとの設定や研修を受けての新たな疑問などを関係各所と協力・連携しながら解決していきたい。

<工夫のある定期考査問題について>

12月22日(木) 研修部 佐々木満

< 2学期中間考査より >

- ・(3年世界史 A) ナポレオンが大陸諸国を支配したことについて、評価できる点と評価できない点を、史料を参考にしてそれぞれ述べなさい。
- ・(3年コミ英Ⅱ) ALT のマシュー先生に自己紹介をお願いします。
- ・(1年家庭基礎) 学校の制服について、好ましく感じる点と好ましく感じない面を述べ、さらに制服を着崩すことについてあなたの考えを述べなさい。洗濯のしみ抜き・被服の保管について、学んだことをどのように生活に生かしたいか、具体例を入れて書きなさい。
- ・(2年英語表現Ⅰ) あなたは、外国人の友達から QUESTION「Are you a morning person or a night person?」「Do you think it is important for students to have a tablet computer?」をされました。QUESTION について、あなたの考えとその理由を2つ英文で書きなさい。
- ・(2年生活と福祉) 高齢者・視覚障害者・車いす体験を通し、利用者が安心できる介助を行うために大切だとあなたが感じたことを体験を踏まえて具体的に書きなさい。
- ・(2年数学Ⅱ) 今回の試験範囲の内容に関して、あなたが印象に残っている内容とその理由を記述しなさい。
- ・(3年世界史 B) 革命前のフランス社会を描いた次の絵について、表していることを文章で説明しなさい。このような革命前の状況を間違っていると考えた人々は、これをどのような状況に変えようとしたか。簡単な絵に描いて表現しなさい。
ナポレオンは、ヨーロッパの人々にとって解放者であっただろうか、抑圧者であっただろうか。史料を参考にあなたの立場を明らかにし、そう考える理由も含めて論述しなさい。
- ・(3年政治・経済) 大国がもつ拒否権をめぐるどんな問題があるか、次の新聞記事を参考に考えて答えなさい。
この写真は、1973年のあるスーパーの様子を写したものであるが、この時はなぜこのような状況になっていると考えられるか、説明しなさい。



- ・(1年科学と人間生活) 廃プラスチックを適切に処理する一環として、私たちが日常生活で取り組めることは何か。あなたの考えを述べなさい。
ヒトの体内時計は約25時間周期である。朝6時に起床していたヒトが時刻の分からない部屋で生活するとする。そのヒトの5日目の起床時刻は何時になると考えられるか。ただし、1日目の起床時刻は6時とする。
- ・(3年フードデザイン) 秋の食材を使った一汁三菜の和食献立を考えなさい。旬の食材を最低三つ使用し、使用する主な材料と調味料を書き出すこと。また、食べる人に向けた献立の紹介コメントも考えなさい。
- ・(3年ビジネス基礎) 「起業家精神」とは、経済事業を通じて社会に貢献することを目的に、企業を起こそうという創造的な精神であるが、もし、あなたが社長になるなら、どういう企業を起こしますか。自由な発想で答えなさい。

- (2年フードデザイン) 自分自身の朝ご飯の摂取状況(普段食べているか)を踏まえ、文章を読んであなたの考えを答えなさい。
- (2年数学 A) 縦 180 cm、横 276 cm の長方形の場所に、1 辺の長さ a cm の正方形のタイルをすき間なく敷き詰めたい。タイルをできるだけ大きくするには、a の値をいくらにすればよいか。ただし、a は整数とする。
- (1年英コミ I) 次の質問について、日本語で答えてください。
マシュー先生が授業の中で、スライドを使って自己紹介をしてくださいました。その中で一番興味深かった内容とその理由は何でしたか？
あなたはこれからマシュー先生とよりよい関係をつくるために、どのようにコミュニケーションをとりたいと思っていますか。

< 2学期期末考査より >

- (3年国語表現) 右の図形を文章で説明しなさい。

右の文章を読みやすくするために、適当な箇所(八カ所)に読点を打ちなさい。

写真を見て、見ていない人にもどのような写真か、どのような印象を受けるかについて伝わるように文章で説明しなさい。

次のはがきは、中学の同窓会の案内に対する返信用はがきである。欠席する場合の返信を書きなさい。

- (1年保健) 快適な睡眠を確保するための工夫を書きなさい。

(「年代別の急性アルコール中毒で病院に運ばれる人の数」のグラフを見て) 20 歳代の人が多いのはなぜか、考えられることを書きなさい。

精神疾患や精神障害者に対する偏見を減らすためには、どのようなことが必要か、書きなさい。授業で作成した飲酒に関するポスターで、あなたが伝えたかったことを書きなさい。

授業で睡眠の自己評価を行ったが、そのときの点数と現在の点数に変化はあるか。また、その理由を述べなさい。

学習したことをもとに、自身を変えていきたい社会のしくみや環境について述べなさい。

- (3年生物) クロンの動物は元の動物の完全なコピーにはならないことが知られている。その理由を簡潔に説明しなさい。

- (3年こどもの発達と保育) 保育実習について、あなたが作ったおもちゃは、子どもにどのような力を身につけさせようとしたものか説明しなさい。

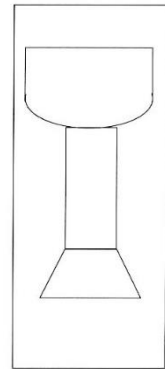
おもちゃで実際に子どもたちと遊んでみて、あなたの想像した子どもと実際の子どもの反応や遊び方はどうでしたか、詳しく説明しなさい。

保育士の先生方の子どもの関わり方を見て、勉強になったことを詳しく書きなさい。

2回の保育実習を通してあなた自身が学んだことや変わったことなどについて、具体的に書きなさい。

「だっこ」と「おんぶ」について、利点と注意点をそれぞれ一つずつ答えなさい。保育者と子どものどちらの視点かを明らかにすること。視点のないものは減点とする。

江戸時代から続く日本を代表する伝統芸能である歌舞伎は世界中で愛されている。その魅力は役者舞台装置内容の三つの要素から成る。そのうちで重要であるにもかかわらず比較的忘れられがちなのは舞台装置の魅力であろう。そこでここでは歌舞伎の舞台装置のおもしろさについて説明したい。



- ・(2年フードデザイン)洋食の食べ終わりのフォークとナイフの置き方を図で書きなさい。
 (資料文を読んで)自分自身の体験談を入れながら、コロナ禍の「黙食」やそれ以前の「共食」についてあなたの考えを書きなさい。
 小中学校時代の給食時間はどのように過ごしたか、特に覚えていることを書きなさい。また、好きだったメニューや苦手だったメニューなど給食について体験談を入れながら答えなさい。
- ・(3年世界史 A)第一次世界大戦終結後、二度と悲惨な戦争を繰り返さず国際平和を維持しようとの決意のもとに新たな世界の歩みが始まったが、結局わずか20年で国際協調体制は崩壊し世界は第二次世界大戦をむかえるのであった。なお、そうなってしまった背景には、第一次世界大戦の戦後処理に問題があったことを指摘できる。第一次世界大戦の戦後処理の問題点を、上の【9】の問題文(これは【10】の問題)を参考に考えて述べなさい。
- ・(1年数学 I)木の根もとPから水平に10m離れた地点Qに立って木の先端を見上げると、見上げる角度が 25° であった。目の高さを1.6mとすると、木の高さは何mか。小数点第2位を四捨五入して求めよ。
- ・(3年社会福祉基礎)コミュニケーションでは共感の対応が大切である。具体的にどのような態度のことを共感の対応というか。
 やってはいけない介護者の対応を1つ答えなさい。
 耳マークのように、障害を持つ方を考慮するマークを考えて図で書きなさい。
- ・(2年生活と福祉)あなたが将来なりたい高齢者像を具体的に説明しなさい。知っている人を例にしてもよい。また、そのようになるために、今後どうしていきたいかも述べること。
 高齢者の聴力は、高音域が聞き取りにくくなり、徐々に中・低音域も聞こえにくくなる。そこで、高齢者に接するときには、どのように話したら良いか説明しなさい。
 聴力が弱っている高齢者に次の①②を行いたい。どのように言ったら良いか。実際の話し言葉で答えなさい。「①体温を測ることを伝える時」「②飲み物を飲むように促したい時」
 あなたは高齢者施設の介護者です。担当している佐藤さんは朝食も終わり、廊下の窓から外を眺めています。佐藤さんに話しかけ散歩に誘いましょう。利用者のセリフに合わせるように、①②にセリフを入れなさい。「(介護者)「①」(利用者)「おはよう。今日はいい天気で、気分もいいよ。」(介護者)「②」(利用者)「そうだなあ。それもいいなあ。」」
- ・(1年科学と人間生活)下図は、非常口への経路を示す看板である。これをユニバーサルデザインを意識した看板にするためにはどのように改善したらよいか。あなたの考えを書きなさい。

右折 非常口

糖尿病予防のために、あなたはどのようなことを日々の生活で心がけたいか。あなたの考えを述べなさい。
- ・(2年世界史 B)もうすぐクリスマス。クリスマスにクリスマスツリーを飾る行事には、西ヨーロッパ文化のルーツを構成する3要素(西ヨーロッパ中世世界の3要素)が全て含まれていると言われるが、それはどういうことか。3要素全てに触れつつ説明しなさい。
- ・(3年数学 II)日常で利用されている10進法について考えると、教科書では「10のゼロ乗=1」とすると定義されているが、どのように説明をしたら理解してもらえると思うか。自由に記述せよ。
- ・(3年英語表現 II)高校生活3年間を振り返り、家族への感謝の手紙を書く準備をします。次の事柄に関して日本語で答えなさい。もちろん英語でも構いません。「家族に感謝したいこと・感謝すべきこと 家族から受けた支援や恩義 自分の支えになったこと かけてもらった言葉 叱ってもらったこと」「これからのどんな行動で感謝の気持ちを表すのか どのようにして報いるのか」

- ・(3年政治・経済)日本中で農業・農村の6次産業化が進められているが、どのような事業を行えば農業・農村の6次産業化と言えるか。モデルとなる例を考えて、具体的な事業の内容を書きなさい。

自立した消費者であるためにはどんなことを心がければ良いか、考えて書きなさい。

今後の公害対策はどうあるべきか、考えて書きなさい。

- ・(2年コミュニケーション英語Ⅱ)「If computers didn't have different letter styles, documents would look too simple.」を和訳しなさい。この考えに、あなたは同感できますか?どのような時にそう感じますか?日本語で答えなさい。

「Stay hungry. Stay foolish.」は「ハングリーでいろ、馬鹿でいろ」という意味です。Steve Jobs は、この言葉からどのようなことを私たちに伝えようとしていると思うか。日本語で簡潔に答えなさい。

- ・(2年保健)いま以上のごみの減量化を進めるために求められることを、それぞれの立場ごとにまとめなさい。「①私たち」「②製造者・生産者」「③社会全体」

水源の水質維持のために必要なことは何か、それぞれの立場ごとにまとめなさい。「①私たち」「②社会全体」

日本は周囲を海で囲まれており、外国からの漂着ごみが問題となっているが、漂着ごみ以外の自然環境の問題を「国境」という言葉を用いて説明しなさい。また、その問題を解決するためのアイデアを書きなさい。

インフルエンザが流行しているとき、インフルエンザ予防に関する健康情報を得ようとした場合、国としての対策などの公的な情報はどのような手段で得ることができるのか、1つ書きなさい。また、感染を予防するには、個人ではどのような対策をとればよいか、1つ書きなさい。

QUESTION について、あなたの考えとその理由を2つ英文で書きなさい。

- ・(1年家庭基礎)あなたは今後ネットショッピングを利用する際にどのようなことに注意していきたいか、注意することを具体的に述べながら書きなさい。

あなたが20年後のマイホーム資金を増やすとした場合、普通預金・定期預金・債券・株式・投資信託のいずれを選ぶか、その金融商品の持つ特徴を明らかにし、あなたの考えを書きなさい。

- ・(3年ビジネス基礎)「福利厚生」とは従業員に対してどのような効果があるか、以下に示すキーワード(「帰属意識」、「働く意欲」)を用いて文章で答えなさい。

- ・(1年現代の国語)右のA・Bは、病院で自分の体の具合について医者に説明したものである。伝わりやすいのはどちらか、また、そう考えた理由を答えなさい。

A なんとなく調子が悪いなあと思っただら、なんだか、食欲がないっていうか、熱はないんですけど、お腹がしくしくするような感じがして。風邪じゃないと思うんで、学校には行ってるんですけど、弁当も食べられなくて、お母さんは心配するし、夜はおかゆを食べたけど、三日くらい前から、いや、二日くらいかな、こんな感じなんです。

B お腹の調子が悪いので来ました。二、三日前から、食欲がなくて、お腹がしくしくするんです。熱はありません。学校にはいつもどおり通っています。弁当は食べられません。昨夜、おかゆを少し食べました。

今年度より、本校では学校設定教科として「地域探究」が開始され、その第一歩として1年生を対象とした科目「地域探究Ⅰ」が実施された。来年度は新たに2年生を対象とした「地域探究Ⅱ」が、再来年度には3年生を対象とした「地域探究Ⅲ」が開始され、この時から3学年全てで教科「地域探究」の授業が実施されることになる。

科目「地域探究Ⅰ」の、1年間の学習活動の概要および成果と課題について、以下に記す。

①科目の概要について

詳細は別紙の年間指導計画のとおりだが、各学期の活動の概要を紹介する。

1学期には単元「西仙北地域の魅力・課題の発見」として多くの講師の方々から講話をしていただいた。特に秋田県立公文書館副主幹の畑中康博様による、西仙北地域の歴史的特徴に関する講話では、古地図と現代の本校周辺の地図を比較しながら、土地の特徴が昔から変わっていない箇所についての話があり、多くの生徒が歴史的・地理的な視点での物事の捉え方に興味を持っていた。また、6月にはユーチューバーで大仙市オフィシャルコンシェルジュである、このはる様(福士木萌様、羽田晴香様)に地域情報の発信についての講義をしていただき、動画配信を始めるまでの経緯や撮影における工夫を紹介していただいた。この講義の後に関連する学習活動として、生徒がグループ別に校内のおすすめスポットを動画撮影し、それを西高祭の中で流し、多くの方々に見ていただくことができた。

2学期は11月中旬までは単元「地域の魅力のプロモーション・フィールドワーク」として、グループ別のフィールドワークを通じて地域の魅力を知り、これを発表する活動が中心であった。8月には秋田大学准教授益満環様にシティプロモーションに関する講話をしていただき、現在各方面で地域の魅力を発信している益満ゼミの活動についても知ることができた。また、9月には秋田公立美術大学助教の草薙裕様に写真撮影の技法について講話・実習をしていただいた。これらの内容を参考にしつつ、9月下旬に西仙北地域のフィールドワークを行い、「西仙北地域おすすめスポット」というテーマのもと、和栄堂や斎藤精肉店といった場所でインタビューや写真撮影を行った。そしてこの時の写真データを元に、その場所の魅力を伝えるポスターデータと発表原稿を作成し、11月に大仙市役所西仙北支所職員と秋田大学益満ゼミ学生においていただき、校内で発表会を行った。特に益満ゼミ学生にはアドバイザーを務めていただき、発表会でご指摘していただいた事項をもとに、生徒は振り返りを行いデータの修正を行うことができた。

2学期の11月後半以降から年度末は、単元「レポートの作成・課題の発見」として、各自が西仙北地域の特徴に関して具体的なテーマを決めて調べ学習を行い、これをまとめ発表する活動を行った。手順としては、インターネット・書籍・新聞などを用いて調べた内容を、タブレットを用いて冬休み明けまでにレポートデータとしてまとめ、3学期にはそのデータを元に、グーグルスライドのデータと発表原稿を作成し、これを発表するという流れであった。生徒の研究テーマは西仙北地域の祭りの面、特産品であるじゅんさい、旅館の樫峰苑など多岐にわたるものであったが、各自が意欲的に諸活動に取り組んでいた。2月には11月と同様に大仙市役所西仙北支所職員と秋田大学益満ゼミ学生においていただき、発表会を行ったが、全員がこの一年の活動の集大成として、堂々と発表をやり遂げることができた。なお、11月と2月の発表会ではいずれも、優秀な発表に対して「益満ゼミ賞」「校長賞」を贈呈した。

また、この授業の一環として、本校を含む西仙北地域の小中高が参加する「大綱米プロジェクト」

がある。このプロジェクトは、地域文化の継承・振興の一環として、西仙北の大綱引きに関する活動・行事に生徒が参加するものである。具体的には5月の田植え、9月の稲刈り・はさ掛け、1月の綱よい、そして大綱引き当日の綱のぼし・小綱つけに参加した。こうした活動は、西仙北地区出身の割合が高くない本校生徒にとっては、学校のある地区の文化に触れる貴重な機会となった。



(このはるさん講話)



(綱よい作業)

②成果と課題

<成果>

- ・西仙北地区に関する基本的な知識をさまざまな形で学ぶ機会となり、生徒にとって有意義であった。
- ・特に1学期は講師の方の講話を集中して聞き、書いてまとめたり積極的に質問することを求められる機会が多かったが、これは生徒の学力向上だけでなく、話を聞く側としてのマナー意識の涵養という点でも有効だった。
- ・大仙市アーカイブズへの訪問は、生徒にとっては身近に貴重な資料を豊富に収蔵した公文書館があることを知るよい機会となった。今後実施される「地域探究」関連の学習などにおいて、同施設を活用する場面が出てくると思う。
- ・このはる様の講話の後、当初の予定になかった学習活動ではあるが、学校祭までの期間で「西高おすすめスポット」の動画撮影、上映までを短期間で行ったのは、学習内容の発展という意味で有用だった。またこの活動のコンセプトは、2学期のフィールドワークにおける「西仙北地域おすすめスポット」と重なる部分があるので、来年度以降は指導計画に盛り込んでいきたい。
- ・秋田大学の益満准教授と益満ゼミの学生の方々には、この一年間本当にお世話になった。益満准教授の専門分野が教科「地域探究」の学習内容と深く関連していることから、講話や発表会アドバイザーの依頼をしたが、生徒が記入した感想を見るとシティプロモーションという活動に興味・関心を抱く生徒が多かった。また発表会においては、学生の方からのアドバイスが、生徒にとって年の近い方からの率直な指摘ということで素直に受け止め、発表内容の改善につながったように思う。もちろん先方の都合もあることだが、可能な範囲で来年度「地域探究Ⅰ」だけでなく「地域探究Ⅱ」「地域探究Ⅲ」でも関わりを持っていただければと感じている。
- ・西仙北地域でのフィールドワークは生徒にとって新鮮な学習活動で、明るい雰囲気の中、元気に挨拶と真剣にインタビュー内容を書き留める姿が印象的だった。また、訪問先の方々からは、今までは小学生や中学生だけがこうした地元探検的な活動をしていたが、新たに高校生がこうした学びを始めたことを歓迎する意見を聞くことができた。地元と生徒との結び付きを深める機会としてい

きたい。

・調べ学習の、テーマ決めから発表に至るまでの道筋を、スモールステップで生徒に示しそれに従って活動できたのは効果的だった。生徒の学習活動の流れがスムーズになり、指導教員にとっては今、この生徒がどの段階にいるのかを把握しやすかったからである。また、冬休み課題としてタブレットを自宅に持ち帰らせた上でレポートデータの作成と提出を課し、作成途中のデータの不備について指導教員がクラスルーム上で指摘するやりとりを行ったが、これから当たり前に行われるはずのこうした学習活動を実施できたのは、生徒にとっても教員にとっても有用だったと思う。

<課題>

・講話を聞いてまとめる場面が多い授業で、それができている生徒とできていない生徒との差が大きく、あまりできていない生徒は先生方のこまめな声かけ等で頑張れたように思う。こうした生徒へのケアは、他の授業同様にこれからも考えるべきことである。またこれに関連して、生徒が講師側の事前準備などの労力に思いを致すことができれば、講話を聞く機会をより大切にでき、聞く姿勢も向上すると考えられるので、この辺りの意識付けをしていくことが課題である。

・フィールドワークにおける、各グループの訪問希望先が特定の箇所に偏ってしまった。生徒が、訪問先を調べる時に用いた資料が同じものだったことと、教員側が人数の関係で、引率にあまり人数をかけられなかったため、訪問先が重なってもあまり調整をかけられなかったことが原因だが、もっと活動に幅を持たせるように、やり方を工夫すべきだったと感じる。また、訪問先への質問内容を吟味したり、相手の回答に対して、必要があればさらに質問を重ねるやりとりをするように指導する必要があったと思う。また、ポスターデータの作成にあたっては、こちらの予想よりも多くの時間がかかることになり、多くの先生方にご迷惑をおかけすることとなった。学習計画に余裕をもたせるように心がけたい。

・1学期の大仙市アーカイブズの訪問を、11月後半からの調べ学習につなげることができたのではないかと。調べ学習は大部分の生徒がインターネットを使っており、書籍や新聞記事を使用した生徒が非常に少なかった。調べ学習を開始したタイミングで、指導する側がアーカイブズの活用について紹介していれば、それができたはずである。

・1年間を振り返ると動画撮影、ポスターデータ作成、グーグルスライドデータ作成と、タブレットを使用している活動が多かった。それに伴い、学年部外の情報科の先生方からプレゼンテーションデータ作成についての授業をしていただいた。また、学年部内の情報機器操作に長けている先生方からは生徒の指導だけではなく、課題を出す側の指導もしていただき、こうした方々の尽力なしにはこの授業は成立しなかったと思う。このことに感謝すると同時に、この授業が持続可能なものになるためには、全ての教員がこうした指導スキルを身につける必要があると感じる。



(秋田大学 益満環准教授)



(フィールドワーク発表会)

教科	地域探究	科目	地域探究 I	単位数	1 単位
学級 (コース)	1A	使用教材	独自テキスト(プリント資料)		
教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの地域の発展にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。 				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西仙北地域の文化、伝統、産業について理解を深める。 ・これからの西仙北地域の発展、あるいは防災にとって重要と思われるアイデアについて具体的に考察するとともに、その内容を効果的にプレゼンテーションする技能を高める。 ・地域社会を支え、高める意識と能力を養う。 				
評価の観点	知識・技能(知技)		思考・判断・表現(思判表)		主体的に学習に取り組む態度(主体)
観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴や文化、伝統、産業の基本的知識を理解できる。 ・データの収集・まとめ・プレゼンテーションについての基本的な技能を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展について重要と思われるアイデアについて、具体的な方策を見出す。 ・自分の考えについて適切な手段・表現を活用し、わかりやすく伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、伝統、産業について興味を持ち、探究しようとする。 ・周囲と協力して学習活動に取り組む。

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A		備考				
				知技	思判表	主体		予定 時数	実施 時数					
4	西 仙 北 地 域 の 魅 力 ・ 課 題 の 発 見	・地歴公民科講話(授業オリエンテーション)	授業の目的と計画を理解する。			○	・授業の目的と計画を正しく理解する。(授業状況)	12		45分授業				
		・地歴公民科の授業(西仙北地域の特徴について)	西仙北地域の特徴を理解する。	○	○		・西仙北地域を地理的・歴史的な側面から正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)				大綱引き保存会来校			
		・大綱引き保存会講話(大綱引きについて)	大綱引き行事の意義や歴史を学ぶ。	○	○		・大綱引き行事の意義や歴史を正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)				校外活動、 午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)			
5	西 仙 北 地 域 の 魅 力 ・ 課 題 の 発 見	・大綱米プロジェクト(田植え)への参加	田植え行事に参加し、稲作と地域行事との関連について体験的に理解する。		○	○	・田植え行事に意欲的に参加し活動するとともに、その感想について適切にまとめることができる。(授業状況・課題提出)			12		畑中先生来校		
		・授業(大綱引きについて)	大綱引き行事などの地域行事のために、自分たちができることについて考察する。		○	○	・地域行事に関する協議に積極的に参加し、その内容を適切にまとめることができる。(授業状況)						このはる来校	
6	西 仙 北 地 域 の 魅 力 ・ 課 題 の 発 見	・秋田県立公文書館の中元先生の講話(西仙北地域の歴史について)	西仙北地域の歴史的特徴を理解する。	○	○		・西仙北地域を地理的・歴史的な側面から正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)					12		水田先生来校
		・このはる(ユージュバー)講話(地域情報の発信について)	地域情報の発信活動のきっかけや、現在の活動内容について理解する。	○	○		・地域情報の発信活動の内容について理解するとともに、自分たちができる情報発信について主体的に考察することができる。(課題提出)							
		・授業(地域情報の発信について)	自分たちが発信すべき地域情報や、その手法について考察する。		○	○	・地域情報の発信に関する協議に積極的に参加し、その内容を適切にまとめることができる。(授業状況)	水田先生来校						
7	西 仙 北 地 域 の 魅 力 ・ 課 題 の 発 見	・秋田大学水田先生の講話(強首地震)	強首地震のメカニズムや被害状況について学ぶ。	○	○		・強首地震発生の原因や被害状況について正しく理解するとともに、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)	12						校外活動、 午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)
		・地歴公民科の授業(西仙北地区の防災について)	西仙北地区において注意すべき防災のポイントについて学ぶ。ハザードマップについて理解する。	○			・西仙北地区の防災において、注意すべき点を理解するとともにハザードマップを正しく理解することができる。(授業状況)							
		・大仙市アーカイブズへの訪問	西仙北地域の歴史や特徴について学ぶ。	○	○		・西仙北地域の特徴を様々な資料を通じて正しく理解し、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)			12				校外活動、 午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)

月	単元	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	1A		備考								
				知技	思判表	主体		予定 時数	実施 時数		予定 時数	実施 時数						
8	地域の魅力のプロジェクト・フィールドワーク	・秋田大学益満先生による講話(地域魅力プロモーションについて)	シティブロモーションの手法とその効果について理解する。	○	○		・シティブロモーションの手法とその効果について正しく理解するとともに、その内容を適切にまとめることができる。(課題提出)	11	35	0	0	0	益満先生・ゼミ生来校					
		・西仙北地域でのフィールドワーク活動計画の作成	グループ毎に、テーマ、計画(日時・担当地区など)を設定する。		○	○	・主体的に、適切なテーマと計画を設定することができる。(授業状況・課題提出)						草薨先生来校					
・秋田公立美術大学草薨先生による講話・実習(写真撮影の技法について)	写真撮影の技法について理解し、これを用いた撮影を実施する。		○	○	・授業内容を踏まえた、効果的な写真撮影を行おうとしている。(授業状況)	校外活動、午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)												
・大綱米プロジェクト(稲刈り)への参加	稲刈り行事に参加し、稲作と地域行事との関連について体験的に理解する。		○	○	・稲刈り行事に意欲的に参加し活動するとともに、その感想について適切にまとめることができる。(授業状況・課題提出)	校外活動、午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)												
・フィールドワークの実施・写真撮影	町歩きやインタビュー、写真撮影を通じて、西仙北地域の魅力を見つける。		○	○	・他者と協力しながら適切な方法でインタビューや写真撮影を実施することができる。(授業状況)													
9	フィールドワーク	・情報科による授業(プレゼンテーション)	プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○		・効果的なプレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)						12	0	0	0	0	
		・フィールドワークの内容のまとめ	適切な方法で、西仙北地域の魅力をまとめる。		○	○	・適切に内容をまとめ、レポートおよび写真を元にしたポスターを作成できている。(授業状況)											
10	レポートの作成・課題の発見	・フィールドワークの内容のまとめ	適切な方法で、西仙北地域の魅力をまとめる。		○	○	・適切に内容をまとめ、レポートおよび写真を元にしたポスターを作成できている。(授業状況)						12	0	0	0	0	
		・フィールドワーク発表会	適切な方法で、西仙北地域の魅力を発表する。		○	○	・レポートおよびポスターをもとに、わかりやすく内容を伝えることができている。(授業状況)											
11	レポートの作成・課題の発見	・調べ学習のテーマ設定	個別に、西仙北地域に関する調べ学習のテーマ設定をする。		○	○	・主体的に、適切なテーマ設定をすることができる。(授業状況・課題提出)						12	0	0	0	0	
		・情報科による授業(プレゼンテーション)	情報収集・プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○		・効果的な情報収集・プレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)											
12	レポートの作成・課題の発見	・情報科による授業(プレゼンテーション)	情報収集・プレゼンテーションの技法について学ぶ。	○	○		・効果的な情報収集・プレゼンテーションの技法について理解し、これを活用している。(授業状況)	12	0	0	0	0						
		・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、まとめる。	○	○		・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができている。(授業状況)											
1	レポートの作成・課題の発見	・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、まとめる。	○	○		・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができている。(授業状況)	12	0	0	0	0						
		・大綱米プロジェクト(綱よい)への参加	大綱引行事に参加し、地域行事について体験的に理解する。		○	○	・地域行事に意欲的に参加し活動するとともに、その感想について適切にまとめることができる。(授業状況・課題提出)						校外活動、午後2H(⑤地域探究、⑥LHR)					
2	レポートの作成・課題の発見	・書籍・タブレットによる調査・まとめ	適切な方法で、テーマについて調べ、まとめる。	○	○		・地域の特徴などについて考察し、適切な方法でまとめることができている。(授業状況)	12	0	0	0	0						
		・調べ学習発表会①	適切な方法で、調べた内容を発表する。		○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、わかりやすく内容を伝えることができている。(授業状況)						クラス内発表					
2	レポートの作成・課題の発見	・調べ学習発表会②	適切な方法で、調べた内容を発表する。		○	○	・プレゼンテーションの技法を効果的に用いて、わかりやすく内容を伝えることができている。(授業状況)	12	0	0	0	0	2年生・職員への発表、益満ゼミ生来校					
		・地歴公民科の講話(「地域探究Ⅱ」コース選択について) ・今年度の活動の振り返り	来年度の「地域探究Ⅱ」の概要とコース選択について理解する。 今年度の活動の感想と、自己評価を行う。		○	○	・授業の概要とコース選択を正しく理解する。(授業状況) ・適切に今年度の学習内容をまとめ、自己評価を行うことができる。(課題提出)											

編集後記

今年もコロナウィルス感染症の影響のもと、学校現場では日々の授業でも学校行事でも様々な工夫が求められました。また本校では一昨年度末に各クラスに電子黒板が設置され、昨年度から全生徒に一人一台のタブレット端末が貸与されています。さらには今年度入学した1年生は新学習指導要領のもとで、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に日々取り組んでいます。このようにハード面・ソフト面での大きな変化が起きている中で、今日教員に求められることは、これまでのやり方に拘泥するのではなく、日々学び続け、自分自身を高めていく姿勢ではないかと感じます。

さて、今年度の研修部は教員全員を対象とした公開授業やこれまでにない内容の職員研修を実施するなど、新たなチャレンジをいたしました。こうした取り組みが最終的には先生方のスキルアップや生徒のよい学びにつながるものと考え、これからも本校ならではの研修を企画していきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の研修を支えていただきました皆様、そして寄稿していただきました先生方、発刊に御尽力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

令和5年3月 研修部

令和4年度 研究紀要「北の沢」

令和5年3月 発行

発行者 秋田県立西仙北高等学校

編集 秋田県立西仙北高等学校研修部